



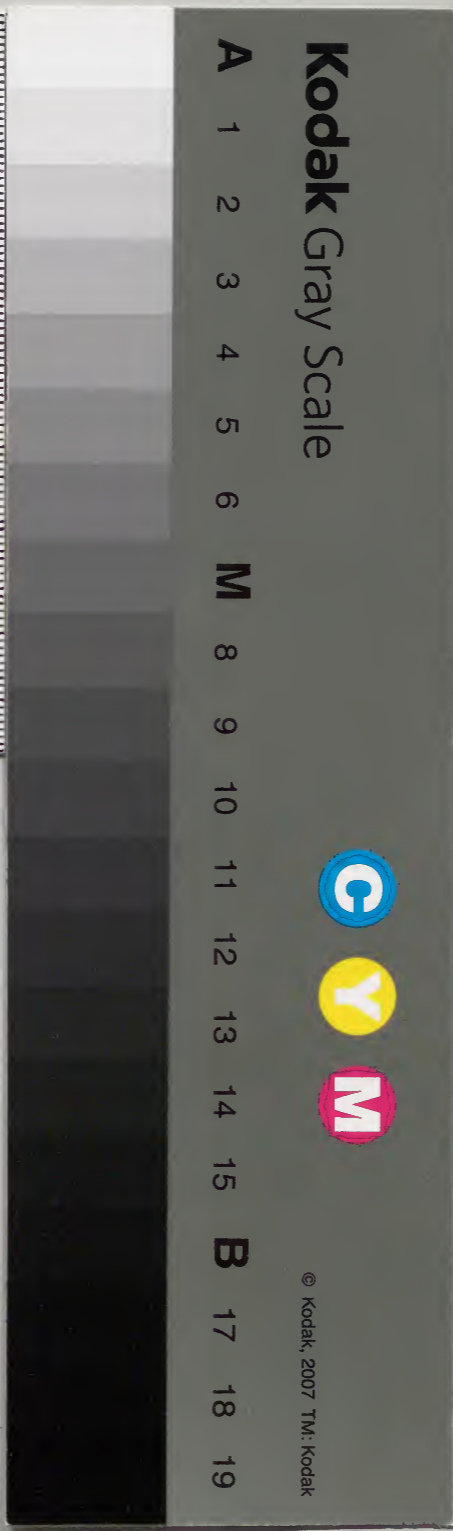
和書門
類

一〇冊	二架	二函	一七二號
-----	----	----	------

内閣文庫

番號	和	17162
冊數	10	(8)
函號	199	221

一九九函一三架



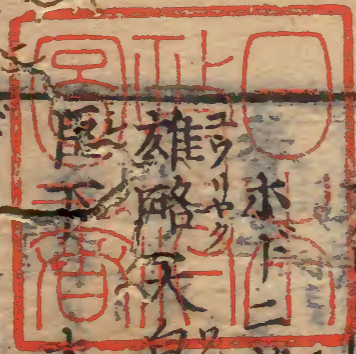
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

養老

風不鳴條 周公時風不鳴條 上 鹽鐵論 二

阿利。日出度世二風吹トモアラク吹又

雄略天皇 人皇三十二代



大臣以下ノ人也

テ也ニウモトスノコホリ 濃洲本巢郡此字歟

奏聞 帝王ハ披露申事也

宣旨 帝王ヨリ仰出サルノ事也

勅定 帝王ノ御ナリ

秋津嶋子ヤアノサガル七十

アキツシニ子ハ下界ノ惣名也アノサガル七十

公君ノ御座所ノ外ヲ申敷

三ノ中道 名所羨濃ノ中道ト歌ニモヨリ

養老 老ヲ養トヨム也夏后氏養國老於

東序ト云事禮記ノ玉制ニアリ夏后ト

禹王ノ事也國老ハ國ノオトナラシ云東序

六ツギノ六十年

生栖踈ニシテ心ハ第店ノ月ニ嘯身ハ板

橋ノ霜ニ漂フ 一生ハ下期ノ事也栖ハ

居所也踈ハソサウナルカタナリ雞聲第

店月人跡板橋霜トニ體詩ノ三卷ニアリ

此心ヲ以テ云乎嘯ハ口フエノ事也第店ハ

カヤ屋ノ義也漂ハ不定ノ義也板橋ハ

イタバシ也

ハクオウノ雪ハ 年ヨリテ頭カ白クナリテ雪

ノ如クナル也

奥山ノ深谷ノ下ノ夕メシカヤ歌山川ノ菊

ノ下水イカナレバナガレテ人ノ老ラセクラン

歟ウタヒノ奥ニ彭祖ガ菊ノシタル露ノヤ

シナヒニ仙徳ヲウケシヨリ七百歳ヲフル事

モ藥ノ水トキク物ヲトアレバ此古事ニ

テアルベキ歟

古今歌露ナガラオリテカサハシキクノ花老セ

又秋ノ夕シカルベク

長生ノ家ニコソ老セ又門ハアルナルニ長生

殿裏春秋富不老門前日月暎朗詠ニアリ

言ハ内裏ノ殿門ヲ仙家ニ譬テ月出度

云ゾ

岩井ノ水岩ホノ中ヨリ出ル水也

御門帝王ノ御事也

勅使帝王ヨリノ御ツカヒ也

我大君帝王ノ御事也

言ノリ勅ノ字帝王ノ御ナリ

ハコク三候歟 育タマヒヤシナフ心也

仙家ノ薬水 此末スエニアリ

アセイノ床 朝寝ノ床也

水 真清水ヲ益ノ字ニカリタリ

サレ石ノ 小石也 歌 君ガ代ハ千代

ニヤチヨニサレ石ノイハホトナリテ苔ノムスミテ

岩ホトナリテ 小石ノ巖ト大石ニ成程久

シキ君ガ代ト也 蓬嶋 蓬來嶋トテ仙人ノスム所也

イク薬 生薬也 不死ノ薬也

ク川ノ流ハタエズニテカモトノ水ニハ

ラズ 予在川上曰 逝者如斯夫 不舍晝夜

論語ニアリ 此心ナルベシ川ノ流ル如クニ

夜王晝モトビラスニテカヘラヌハ人ノ年

ヨリテ逝ヲ云ゾ人ノ死スルヲ逝去ト云ハ

コト也

ウタカタ 水ノ泡ナリ 奇瑞也キドクナルニルト云義也

モ夕ヒノ千クヨウハカケヤ緑ヲカサヌラシ

甕頭竹葉經春熟モ夕ヒノ千クヨウハカケヤ白樂天ガ詩ナリモ夕ヒノ千クヨウハカケヤ

上ハ酒ノ器也竹葉ハ酒ノ名也經春熟ト

ハ冬ツクリタルサケノ春ニナリテ多熟スル也

籬ノ荻花ハ林葉ノ秋モ夕ヒノ千クヨウハカケヤ

荻花ハヲキノ花也林葉ハヤシノ葉數

晉七賢ガ樂ミ刘伯倫ガ翫ヒモ夕ヒノ千クヨウハカケヤ晉ノ世ニ

竹林ノ七賢トハ嵇康阮籍山濤劉伶向

秀阮咸王戎也劉伯倫ハ劉伶也七賢ノ内

ナルトモ重テ云也七人ナガラ酒ズキナル

ヨリテ云ノモ夕ヒノ千クヨウハカケヤ

曲水ニ浮アフムハ林ヲ云也新豊酒色清

冷鸚鵡盃之中朗詠ニアリ新豊縣ハ酒

ノアル處也鸚鵡盃トハ海中ニ具アリ其

形鸚鵡ニ似タリ其背ヲ穿テ盃ニスル也

右ニサハリテ遅クトモ手ニミツトリテ

遅來心竊待牽流遄過手先遮朗詠ニ

アリ曲水ニ觴ヲ流セハ石ニサハリテ遅ク

来ルホトニ待カヌルツ流シニ牽レテ。盃カチ
ガレレバ詩ハ出来サレトモ手ニテ先トル也
彭祖ガ菊ノ水ニタ、ル露ノヤレナヒニ
仙徳ヲ受シヨリ。七百歳日本文粹十一ノ
卷ニ。黄花助彭祖之術彭祖ガ菊水ハ是
ヲ謂乎仙人ノ徳有テ。七百歳也。八百歳
トモアルナリ。物ノ本ニヨリテカハル也
雨露ノ惠ニテ。雨露ノ恩ニテ。花ハサキ
出ル也

花ノ父母タル。養得自爲花父母ト。朗詠
ニアリ。花ハ雨ノ濕ニテ。生長スレバ雨ヲ花
ノ父母ト云義也
袖ヒチテムスフ。袖ノヌレテ也
影サヘミユル山ノ井。陸奥安積郡浅香トモ
書。歌。歌。女。浅カ山カテサヘミユル山ノ井ノア
サクハ人ヲ思フ物カハ。フカク思フト云心也
若水。元日ニ結ブ水ヲ云乎。ソレヲ若ナル
水ニカリタリ

尊タカシホ崇タカシホ字ナリ歟ヤダツトム心ココロ也

感カン淚レ 此事コトヲ感カンズレバ才サイホエズ淚ナミダヲナカ

ス義也

奇キ特トク アリカタキニシナルコト也

音オン樂ガク キユエ花ハナフリヌ 虛コウ空クウヨリガクノ音オン

ガ聞キユルハ瀑タケノヒビキナリ又花ハナフルハ瀑タケ

花ハナトテ瀑タケノ水ミヅノヒルハ花ハナノ如ゴトクニ見ミユル義也

山ヤマ河カ草クサ木キヲダヤカニ 山ヤマ河カモヒツカニメ草クサ

木キモノヒクト生長シヨウスル也

五日ノ風カゼヤ十日ノ雨アメ 五日ノ風カゼ十日ノ雨アメ

論ロン復フクニアリ太平テイヘイノ世ヨニハ五日ニ一度

風カゼ吹フク十日ニ一度雨アメフリテ草木クサキヲ濕シメス也

天下テンカ照テラ日ニチノ光ヒカリ 天下テンカヲ日ニチノ光ヒカリテラス也

天照アマテラス太神タカミヤノ御事ミコトコト也

玉タマ水ミヅノ 褒ホウ義ギノ詞コトバ也又玉タマ水ミヅトテ各所ナニトモニモ有アリ

法ホウノ水ミヅ 法ホウ水ミヅトハ佛法ブツポフヲ水ミヅニ譬タトヘタル辞コトバナ

無ム量リヤウ義ギ經キヤウ云ク譬タトヘ如水ミヅ能シヨク洗アラフ垢ケガレ穢エラ若ニハ井イ若ハ

也ナリ若ハ江カハ若ハ河カハ溪タニ渠ニ太ミツ海カイ皆ナニ悉ニ能シ洗アラフ諸ナニ有アリ垢ケガレ

穠其法水者亦復如是矣。又佛法之法
水十舉示。衆生ノ垢穢ヲ洗ト宣タリ。今
謠ノ辞譬ハ同法ノ水ト云ヘルハ神慮モ
佛智モ同ク衆生ヲ現當ニ世トモニ守
護之給フト云事也

ワレハ三山サレシノ宮井 山人神ノ事也
揚柳觀音 惹ノ觀音ニフヒテ六觀音ト云
事アリ。一ニハ千手地獄道ヲスクフ。二ニハ
正觀音。餓鬼道ヲ救。三ニハ馬頭畜生道

ヲスクフ。四ニハ十一面修羅道ヲスクフ。五ニハ
准代。六道ヲ救。但三非寺ニハ不空綯索ヲ
用。六ニハ如意輪。天道ヲ救ナリ。コレヲエバ
諸經諸論ニ多ク説タリ。然ドモ楊柳觀音
ノ事。經論ニ慥ナル説ナシ。大師ノ作ヨ
リ出タル歟。或ハ本唐日本ニシテ。故
事アル歟。但又六觀音ニ三ツ、口傳ニ
出。十八ノ觀音ト云事アリ。此時ハ楊
柳觀音ト云名モアリト見エタリ。高峰

長久保

録 觀世音菩薩現慈悲相聖皎潔眉灣
 如翠柳下毛或公曾向觀音楊柳上十ト
 云々事ハ唐ヨリ。イニ來レリ。又清水寺ノ
 觀音ノ事ハ元亨釋書ニハ唯庭前ノ株
 拵トハカリイヘリ。此株ガ楊柳ニテ
 リツル故ニ楊柳觀音ト云イニ來々歎
 神トイヒ佛トイヒタヨレ水波ノ隔ニテ
 神佛ノ致水波ノ如トイヘリ。佛説也
 此説ハキモ佛ト神ト水波ノハタテニ

譬々佛ハ本地水ノ如ニ神ト云ハル
 事ハ衆生ノ穢同スル形トシテ種
 種ノ色心ヲ現セラル事波ノ太亦ノカ
 タテ現スルニ譬タルナルヘシ
 衆生濟渡ノ方便ノ聲 是ハ佛ノ神ト顯
 テ慈悲正直トト教風聲水音ニテモ特
 ヲタカヘス四季轉變華實十トアル比皆コレ
 佛神ノ衆生ニ教ヘ示シ給ヘル姿ナリ
 云事也

谷ノ水音トウクトトウクノ字。藪ノ歎
諸天來現ノ影響。人ノ心。正直ニノ風聲

水音マテモ明ラメヌレハ天ハ正直ノ頭ニ
ヤナル道理ニノ必來リアラハレ給ヘル十

ルヘシ。影響トハ影ノ形ニシタガヒムカフル
如ナルヲ云也

水滴トシテ波悠々タリ。滴ハヒタタク
也。水ノ大ナル兒也。又毛詩ニ江漢滔滔

ト云語アリ。水悠々トハ三體詩ニ寒鴉
飛盡水悠々トアリ。悠々ハ水ノ遠ク平

平トアル義也
君ハ舟臣ハ水々能浮舟臣能仰君

真觀政要ニ云君舟也。臣水也。水能載舟
ト云義也。君上。臣トハ水ト舟トノ如ク

ニ相應シタル義也
玉水ノ上スル時ハシモ、ニユラス又水上ノ清也

万歳ノ道ニ歸ナシ。千秋万歳ノ目出々
世ト云義也

世ト云義也

通盛公門カノ中納言ナ教盛モリノ嫡子チ年三
十ヲ壽永三年二月七日ニ谷三ノ卒死
ト。平家物語ニアルヨシ。山中ヤマナカ檢校ケンギョウ申也
阿波ノ十ト。鳴門ナリノ。阿波ノ國也。塩シホノ色イロ。
夕ユフ所トコロニ。海中ウミナカ鳴ナリト也。
是ハ阿波ノ鳴渡ナリワタ。一夏イツナツヲ送僧ソウゾウニツ候。
一夏イツナツヲ送オウ上ノボリ。四月十五日ヨリ七月十五日
ニ。九十日ノ間マダ禁足キンソクトス。他タ所トコロヘシテアリカ又事

通盛トウセイ公キミ門カドノ中納言ナカノリノノリ教盛モリノ嫡子チ年三
十ヲ壽永三年二月七日ニ谷三ノ卒死
ト。平家物語ニアルヨシ。山中ヤマナカ檢校ケンギョウ申也
阿波ノ十ト。鳴門ナリノ。阿波ノ國也。塩シホノ色イロ。
夕ユフ所トコロニ。海中ウミナカ鳴ナリト也。
是ハ阿波ノ鳴渡ナリワタ。一夏イツナツヲ送僧ソウゾウニツ候。
一夏イツナツヲ送オウ上ノボリ。四月十五日ヨリ七月十五日
ニ。九十日ノ間マダ禁足キンソクトス。他タ所トコロヘシテアリカ又事

也夏ハ方ノ蟲トモ出ルエアリケハ踏殺ス程
ニ出家ハ夏ノ間ハアリカスレテ井ヨト云釋道
ノ戒也翻譯名義集云夏中除大小便餘
則跣跣而坐又南山云夏中方尺地悉並
有蟲云夏中公大小便ニアルク外ハアリカ
サル也跣跣トハヒサラクニテ不立義也
平家ノ一門 太政大臣清盛公ノ一類也
ワタツミ 海若 海ノ惣名也
アソクニキヲウツシテセイクウナ 暗濤埋月

無清光波ノクラキ中ハ月カサセハ月ヲウ
ツニタルヤウナホトニキヨキ光九ナキト云義也

アフレニタクヘテ タクヘテハ少加ヘテノ心乎

タノヤ此鳴門ノオキニ音スル公ニリサタメ又

海士ノ釣舟

讀誦 二字十カヲヨムト云字也經ヲヨムト

云義也

十九下ノウニ 鳴門ノ海也

歎誓深如海歷劫不思議 是法華ノ觀音

通鑑

二

品ノ文也意ハ觀音ノ衆生利益ノ行ト願ト
云ヘル文也初二弘誓ト云ハヒロクチカフト
讀也菩薩ニ色々ノ誓願アル事ヲ此弘誓
ノ二字ニツメタリ次ニ深如海トイヘルハ譬
ノ意也越ノ海ハ漸クニ深シ廣サモ又討無
觀音ノ御誓願並ニ諸佛ニ奉隨自身ノ修
行劫ヲ歷テモハカラレサルコトヲ歷劫不思議
ト云也歷劫ノ劫トハ經論ノ意色々ノ説
レトモ一義ニ依ハ壁ノタテモ横モ同四十里

四カノ唐櫃ヲサシテ其十カニ芥子ヲ一盃
充テ三年ニ一粒ツル芥子ヲ取捨テ如此
ノ唐櫃ノ中十九芥子ヲトリ盡ス聞エ劫
ト云也四十里トハ六町ヲ下里ト定テ事也
五十展轉隨喜功德品
是モ法華ノ心也五十ト云ハ五十人トイフ事
也展轉トハ傳ヘ行意也然レハ法華經ヲ説
テ聞テ五十人一テ語傳ヘ行ト云意也其
五十番メノ人ハ聞テ法華ニ隨喜心少ハアル

トモ人ニ云傳テテ心ハナシ此ノ人ノ功德其ノ餘
ノ經々ノ修行ノ功德ニカハリテ法華經王
ノ力甚強カ故ニ佛ノ語ニモ盡サレズト法
華ノ隨喜功德品ニ説給ヘリ

龍女變成ト聞時ハ法華提婆品ニ八歳

龍女カ即身成佛セシコトヲ引出ス語也變
成ト云ハ變成男子ト云事也此意ハ龍女
ノ身ニシテ成佛覺ヲ得自由ノ身トル故ニ
男子ノ形トモナレリ

願毛滿ノ車ノ此語ノツキ法華ヲ聽聞

シテ佛法ノ所願満足スト云事也然レトモ
語ノツキニヨセテ三ノ車トハイヒカケタ
ルナルベシ

小宰相ノ局藤ノ刑部教賢ノ女禁中第

一ノ美人ナリ上西門院女房夕十ナリ二十

四歳ニテ壽永三年二月十四日夜半ニ

入水ト平家物語ニアル由檢校申也

馬上ヲアラタメアマノシ船ニノリウツリ

馬上シバ置テアノ小船ニ乗心也。改公前ヲ
捨今更ニト云心ナルベシ

破馭盧島ヤアハチカタ 伊奘諾伊奘冊尊ノ
矛ヲサシオロシテ。一ツノ島ヲウルト云。此島ナリ

淡路島ヲオノコロ島ト云。説モアリ。其外説
々オホキ也

主從 君臣ト同シキ也。從トハ臣下也。君ニシ
タカフノ義也。從ノ字ヲシタカフトヨム也

此ハ軸ノ誓ニテ一人モラサジノ方便品ヲ讀
誦スル 此ハ軸ハ法華八卷ヲ云也。誓言ト云

ハ。法華ノ十カニ釋尊昔一切衆生ヲ一人
モ漏サス。我如ノ佛ニ成テ誓願ヲ立タマフ事

シ明セリ。是ニ依テハ軸ノ誓ハイヘリ方便
品トハ法華第一ノ卷ノ品ノ名ナリ。此品ニ諸

法寶相ト云。法門ヲ述テ。一切衆生ヲ佛
ニ成ス方便ナルカ故ニ。方便品ト題セリ

如彼昔所願今者已満足化一切衆生皆令
入佛道 是則法華ノ方便品ノ文也。意ハ釋

直經

尊昔ヨリ御願今法華ヲ説給フ時滿足
之給フト云事也其子細ハ法華ヨリ外ノ經
ニテハ善人ハ得道スルヤナレトモ惡人ハ曾テ
佛ニナラス或ハ善根ノ人間天上ハ得道スル
ヤナレトモ畜生修羅ハ成佛セズ然レ法
華ハ一法ニ諸法ヲ收メ凡法ナレハコレヲ
結縁スレバ地獄モ畜生モ其外ノ善人ハ
沙汰ニ及ス皆一同ニ佛道ニ引入給フ時佛
ノ御願成就ストイヘル文也此事ヲ化一切

衆生皆令入佛道上結せり

十ニメキタル 最媚トカケリウツクキ良也

小宰相ノ局ノ幽靈ナリ 幽靈トハカスカナル

夕ニシヒトヨム也人死シテ冥途ニアルトキ其

意モ形モカスカナル處ヲ幽靈トハ云也

甲冑 カフトヨロヒノ事也帶トハ甲冑ヲキルコ

トハ唐ニハ甲ヲヨロヒ曹ヲカフト云也

兵具イミシク 武士ノ道具可然ト云心也

武將 武士ノ大將ノ事也

通盛

通盛ミチノリ 從三位越前守門齋中納言教盛モリ 婿

生田ナマタノ森モリノ合戰カウゼンニライテ名ヲ天下ニアケ武

將シラサタツシホマシテ越前エチノ三位通盛ミチノリ 通盛ミチノリ 生田ナマタ

ノ合戰カウゼンノ大將シラサニアラス 生田ナマタノ大將シラサハ友盛トモノリ

副將軍ソウシムンハ重衡シラサリ也 通盛ミチノリハ山ノ手ヤマノテノ大將シラサナル

由檢校ユキケン申也 是ハ城ノ面シラサヲ常トコ申シラサテスニ候也

追手オウデノ陣チン 是ハ城ノ面シラサヲ常トコ申シラサテスニ候也

ム子トノ一門 平家棟梁ヘイケトウリヤウノ一門也

ズイ、子 隨シラサ一采シラサシタガフ也 大將シラサニシタガフタル

内ノ一カシラト申シラサ心ココロ也

項羽コウウ高祖カウソノ責シラサヲウケ 楚ソノ項羽コウウ漢カンノ高カウ

祖ソト 天下テンカヲアラソフ事コト九年ノ間也 其内陣ウチノチン

ヲハツテ 相戰シラサ事コト七十一度也 度ドハ項羽コウウ勝カチ

シタリ 然シラサトモ 七十ニ度ド又ニ 高祖カウソ惣ソウガキ

ヲセラレタゾ 其時キトキ項羽コウウノ愛アイセラレタル 虞氏ヨ

云イフ美人メイジン 項羽コウウト 別事ワカコトヲ悲カミテ 數行スノ流ナガ

ヲナガス也 數行ストハカズツラナル也 淚ナミダノ力チカラキ

通盛

二

川モナクツラナルヲ云也。是ヲ朗詠ノ詩ニ燈
暗數行眞氏涙トアリ

能登守 教經正五位下 通盛弟也

但馬守經正 正四位下 參議經盛卿子平

清盛公ノ姪也

薩摩守忠度 正四位下 清盛弟也

木村ノ源五 平家物語云木村三郎成綱

トアリ。江州ノ住人也

共ニ修羅道ノ苦ヲ受ル 修羅ハ惡心深

レテ。常ニ闘ヲ好者ナレバ世間ノ戰ノ上ニテ

モ則修羅ト云ツケタリ。今モ修羅道ノ

苦ト云ハ通盛ノ人間ニアリレ時ノ執心ニ

ヒカレテ。戰ノ苦ヲ受ルナルベシ

讀誦ノコエヲ聞時ハ惡鬼心ヲヤハラテ忍辱

慈悲ノ姿ニテ菩薩モコニ來迎ス成佛得脱

ノ身ト成行ソ有難キ 讀誦ト公文ニムカ

以テヨムヲ讀トイヒソラニヨムヲ誦ト云何レモ

經ヲヨム事也。惡鬼心ヲ和クト云ハ御經讀

誦ノ聲ヲ聽聞スルニ依ト云事也。越ノ修
羅ノ心。嗔恚強盛。憍慢慳貪也。シカレニ法
華聽聞ノ功カニ依テ強盛ノ嗔恚ハ柔和
ニ成。憍慢ノ惡心ハ忍辱ト變ジ。慳貪ノ邪
念ハ慈悲ト顯ル。此時ワガ心モ形モ菩薩
ノ念トナシ。即菩薩ノ來現ト見タリ。菩
薩ナレハ成佛無疑ト決定セル語ス。サリテ
ルヘシ

二人靜
三吉野
大和吉野郡ノ名所也

勝手御前
神書ニ垂跡ノ号ハカリアリ

御實名所見ナシ
夏箕川
夏身共書也。吉野ニアル名所也

三ツタセハ松ノ葉シロキ吉野山イタツモリ
シ雪ナラン
或ハ在今ニ入畢ニ條家ノ三ツ

本歌イタツモリ雪ニカクラトアリ心明也
木ノメハル雨
木ノ芽ノハルト云カケタル也

春日野ノトクヒノ野守イテミヨ今イクカマ

リテワカナツミテシ古今ノ歌也倅葉抄ニ

云ヘルハ春日野ニ飛火野トイフコトアリ

烽火タテラシケル故トナリ其野ラニモ

ル人ヲ野守ト云野ラニモル人ナレバ出テ

見ヨイマイクカアリテワカナツムヘキ程ニナラント也

春タツトイフ計ニヤミヨシノ山毛霞テケサハニ

ラシ生忠峯歌也春ノタツト云ヨリハヤク高

山ナレ共霞ト云事也初春ノ朝ノ事也

一日經頼寫トテ大勢アツマリテ一度ニ

經ヲ書タツルソ

社家 神ニ仕ユル人ノ事也

水クキノ筆ノ跡 物ヲ書タル筆ノ跡也

サバカリ 太小トカク也

三山木ノソノ梢トモニエガリキ櫻ハ花ニアラハ

シニケリ 詞花頼政歌也花サカ又間ハ櫻モ

三山木トミエシガ花サキテ今アラハレタルト云也

判官 左衛門大尉也

二人静

忠信ハ判官殿ノフセキ矢射ソラ腹キリ

此事平家物語ニナシト山中檢校申ス

大カウ 大剛ノ字乎ケナケ者ノ義也

衣川 陸奥磐井郡ノ名所也

サイコ 最期トハ死スル期ト云心也期ト

云公死スル最キハト云心也日本ノ世話也

兼房ハ判官殿ノ御死骸 骸ハ説文ニ脛

骨也六骸ト云時ハ手足ト首ト身ト也

死骸ハ死シタル骸骨ト云心也兼房義經ノ

死骸トリヲキタハ事平家物語ニナシ

此山マデハ御伴申シ 此事ナキコト也静ハ

大物ノウラミテ舟ニノリ大波ユヘ住吉マテ舟

モトリシ時住吉ノ松原ニステヲカシ義經

ハカリ吉野ヘ落ラレシ也

ツニシナガラハツカレナカレト云事也

セイガウ 精好也大白ナビニスル物也

花ツクシ 花々ヲツクシタル心ナルベシ

寶藏 神ノ寶ヲオサムル處ノ義也經ヲ入ル

六經藏ト云オドニ寶藏モ同キ心也

神物 神ノ靈寶ト云義也

川ヨド 河ノヨドニタル所ヲ云也 新古今ニ

吉野ナルナツミ入川ノ河ヨトニ鴨ソナク丸山

カケニシテ 湯原王

判官ハ凶徒ニ準セラレ

小舟 ヲコラ子也

渡邊神崎ヨリヲシワタラシトセシニ

義經渡邊ヨリ舟ニノラレシ事平家物語ニ

アル公ハ島ヘワタルトキノ事也此時カンホキ

ヨリ舟ヲ出セルハ範頼也義經都洛ノ時ハ

大物ノ浦ヲ出セル也

渡邊神崎 何モ攝津國ニアリ神崎ハ各所也

海路心ニマカセス ウラニミチ也

難風 惡風ヲ云フ

天命 コノ公運ノツクル處ヲ云フ天カラ命ヲア

タユル天ノマナル處也歸去來賦ニ樂夫

天命復奚疑ト云ハ天ノイタユル命ヲタノシ

ニテ別ニ物ヲモトムベカラス是ヲウタカフベカラス

下フシ 花ノ下ニフス事ナリ 下卧

一榮一樂 榮ハサカエ 樂ハタノヒム義ナリ

清見原天皇 天武天皇御コトナリ人皇

四十代

大友ノ皇子 太政大臣天智天皇御子也

櫻木ノ宮神ノ宮瀧 吉野ニクニ座ト也何レ

ノ神イマダカレハ得ス 官瀧是モ所見ナシ

神ノ宮瀧 吉野ニアリ 神ノ宮トウケタル也

官瀧名所也

西川ノ瀧 吉野ニアリ

神ノ宮瀧 西河ノタキ 皆何レモ吉野ニアリ

モロコシノサコク 自昔此故事知レハル也

遊子残月ニユキシモ 遊子猶行於残月ニ

朗詠下ニアリ 遊子ハ旅行ノ人ヲ云残月ハア

リアケ也旅行ノ人ノ遊テ曉マテ行心也

花ヲフシテハ同シクオレム少年人春ノ夜モ

二人静

踏花同惜少年春 白樂天詩也花ヲモ

テアソビテウカキ時ヲ思フ又八年ノヨシ

事ヲ思テ少年ノ春ヲオシハ義也

頼朝權大納言征夷大將軍右大將正二

位清和天皇十世ノ孫也

シツヤ賤シツノラタキクリカヘシムカシライニ

ナスヨシモカナ古今ニハイニシヘトアリシツ

ノラタキ歌林良村ニシウミタルヘソラ云

ト也クリカヘストノ部歌也

木曾

ヤホ万代ヲオサムナルヤホトハ八百ト書ナ

リ物惣ノ日本ニハハツト云事ヲ用ヒ來ル事

多シハ嶋八咫ノ類コレナリ今ノ謡ニイヘル

意ハ木曾義仲始テ驕ル平氏ヲ討テヨ

リ相ノヒテ義經追討平家八百万代モ

治ル始トナルコトヲ祝メ云也

木曾義仲征夷大將軍正五位下頼朝ノ

イトフ也清和九代ノ孫帶刀先生義賢カニ

男也

越前火ウチガ城ヲ責オトシ

燧城ハ木曾信濃ニ在ナカラ構ケル城ナ

ルシ平泉寺ノ長吏齊明威儀師ト云者カ平

家へ返忠ヲメ責落サシメタリ

礪波山ノ波ト云字ヲ並ノ字ニモカク也越

中ノ郡ノ名也名所ナリ故ニ顯季ノ歌ニ

休モカ家ニクモノ振舞ヒルヤラントナリ

關シ今日コエテクレハ

龍虎ノ威ヲ振

長ト書テイロコヲイタケル物ノ中ニ龍

尺計ナル鱗アリテ若人コレニアタレバ忽ニ死

スル也怖シキ物也又虎ハ司馬遷カ任安

ニ答タル書ニモ猛虎在深山百獸震恐ル

ト云ヘリ又韓退之ガ語ニモ正晝當谷眠

眼有百步威トカケリヒル子ヲシテ居レ

トモ百歩ハカリ前カラ恐キナリカヤウニ

怖^{ドモ}ニキ物共^{ドモ}カレバ^バ武士^{ブシ}ノ威勢^{イセ}ニタトヘ

師^シ子^シ象^{ガウ}ノ勢^セ 師^シ子^シハ形^{カチ}似^{ニテ}虎^{トラ}黄色^{キイロ}也^{ナリ} 銅^{ドウ}ノ

頭^{ラウ}鐵^{テツ}ノ領^{リョウ}ニ鉤^{カケ}ノ爪^{ツメ}鋸^{ノコギリ}ノ牙^{キバ}ニ目^メノ光^{ヒカリ}リ

ハ電^{イナズメ}ノゴトク吼^{ウレ}聲^{コエ}ハ雷^{イカチ}ノ如^{トシ}ナリ能^ス虎^{トラ}豹^{ヒョウ}ヲ

モ食^クスト見^ミタリ熊^{クマ}羆^ヒ此^{コノ}ヲ三^{サン}レバ則^{ナラバ}ニケカ

クレテ或^シハスクミ伏^{フス}ストアリ震^{シメ}且^ナ國^{クニ}ニハ

無^{ナシ}多^タ分^{ブン}ハ月^{ツキ}氏^シ國^{クニ}ヨリ來^キルトナリ象^{ゾウ}ハ

交^{カウ}趾^ジト云^{イハ}所^{トコロ}カラ出^デル也^{ナリ}以^{ヨリ}鼻^{ハナ}カノ物^{モノ}ヲ食^ク

シ水^{ミヅ}ヲモ鼻^{ハナ}ヲウゴカシテ飲^{ノム}ナリニサニ

セシトアハ巴^ハカ牙^{キバ}ヲ石^{イシ}ニ打^{ウチ}アテ折^{オリ}テ其^{ソノ}

三^{サン}下^ゲ身^ミヲ害^{ガイ}シ齒^ハヨリ火^ヒヲ出^デメ己^ミガ身^ミヲ

焚^{ヤク}クト見^ミエタリ死^シヤウノ夕^{タタ}カナル物^{モノ}ナ

クハ武士^{ブシ}ノ最^{サイ}期^キノケナケナル所^{トコロ}ニ喻^ユニテ

帝^{テイ}釋^{シヤク}修^{シュ}羅^ラノ思^シヲナシ佛^{ブツ}家^カノ意^イ今^{イマ}見^ミル

所^{トコロ}ノ天^{テン}ノ上^{ウヘ}ニ又^{マタ}天^{テン}アリ其^{ソノ}天^{テン}ノ主^{ヌシ}ヲ帝^{テイ}釋^{シヤク}ト

云^{イハ}也^{ナリ}四^シ天^{テン}主^{ヌシ}モ日^ヒ月^{ツキ}モ此^{ココ}帝^{テイ}釋^{シヤク}ノ臣^{シヤク}下^ゲナリ

カ^カル威^イ勢^セノ上^{ウヘ}ニモ羅^ラ睺^コ阿^ア修^{シュ}羅^ラトイフ

者ノ敵ヲシテヤ、モスレハ戰ヲ作ス也
此軍ノ根源ハ含脂婦人ヲ吾妻ニセント
大争トヨリ起レリ

日月モ手ノ裏ニナシ右ニ云フ所ノ戰ノ時彼

修羅カ日月ヲモ握ヒシガントスルト云

事ヲ正法念處經第十八卷曰阿修羅思

惟是已從城而起即以一手指覆障日月諸

光明輪世間愚人諸相師等咸記災詳如

上所說復以一手摩須弥頂欲與諸天決

其得失矣

梓弓 梓ノ木ニテ作タル弓ヲ云也

矢サケヒ 矢ヲ射アテウメキサケブ事ヲ云

也軍陣ニカキリタル語也常ニ不可言歟

クリカラ 越中國礪波郡ノ山也加賀サカヒ

ニアリ昔越ノ大德神融和尚ト云タル人此

山ニテ俱梨伽羅不動明王ノ法ヲ修セラ

レト所ナレバ則山ノ名ニ付タルヲ各フカク

山高ノ嶮難ニシテ道細ク馬モ人モ行違

事タマスカラサル處也

クツバニクツバニクツワノ事タルベシ

社壇ニテ社ノ字ハヤシロト讀メリ神ヲ勸請

ニタテマツル殿ヲ云也

勸請ニヨラス何レナリトモ信心恭敬

ノ心ヲ以テ此所ニ住ト給ヘトス又請ニ奉

天ルヲ云也佛神モ其心ヲ感ニ給ヒ其所ニ

御座シテ常ニ人ヲ利益ニ給フ也實ニ

有カタキ事也

ハニラノ八幡垣生ノ新八幡ト云也木曾義

幹仲軍ノ事始ニ社壇ヲ見タルヲ喜テ即越

中國ノ住人池田次郎忠康ヲ召テ此ヤニ

口ノ名ト又イカナル神ソト尋ニムル也

覺明本ハ勸學院ノ文章博士進士藏人

通廣ト云ケル者也出家ノ西乗坊信教ト

今各ヲツキテ南都ニ居タリ後ニ信州へ越テ

木曾ニ付テヨリ各ヲ改テ古ル山法師ニ

源造テ木曾大夫坊覺明ト云ヘル也

願書^{ケト} 佛神へ我が願^{チカ}ノ事ヲ書^{カキ}タテ、其

奇特^{キトク}ヲ待^{マツ}ツ書ノ事ソ

今井^イ 四郎兼平ト云石木曾ノ乳母ノ子也

西^ニ信濃^{シノ}ノ住人ゾ

樋口^ヒ 次郎兼光ト云ゾ是モ信州ノ住人ナ

リ。木曾討死ノ後ニ義經ニ降参^ヒテ見^ミ苦

ニキアリサニ成リ終^ハニキラレテ死タリ

神徳ヲ仰^ミ 垣生ノ八幡ノ御恩徳ニヨリテ只

今軍ニ勝利ヲ得^セシメ給ヘト。昌^{カサ}仰^{カウ}ノ思^シニ

ヲナスヲ云^フ。神徳ノ二字ヲ日本紀ニテハ

アヤシキイキドヲリト讀^ム也

歸命頂禮 歸命トハオホセニ歸ストヨム也

佛神ノオホセニ從^ヒテ心不亂ニ憑^ヒタテニツ

ルト云義也。頂礼トハ頂^{イタ}ヲ地ニツケテ礼^{ライ}拜^イ

ル事也。惣^{ソウ}ノ礼法ニハ九ノ次第ガアル也。頂

ヲ地ニ著^{ツケ}テ礼スル事至極ノ敬也

八幡大菩薩 八幡ト申スハ應神天皇ノ御

事ナリ。人皇第三十代。欽明天皇ノ御宇ニ

始テ神ト顯テ筑紫ノ肥後國菱形池ト
 云所ニ現ジタマヒテ我ハ人皇十六代譽田
 ノ八幡九ナリト宣ヒキ譽田ハ本ノ御名十
 リハ幡ハ垂迹ノ号也後豐後國宇佐宮ニ
 鎮座アリ清和帝貞觀元年己卯ノ歲ニ
 男山石清水ニ移リ御座ノ天下ヲ守リ
 給フ也委ハ日本紀并元亨釋書第十五卷
 ニ見エタリ

日域朝廷 日域トハ日本國ノ事ナリ朝廷

トハ内裏ヲ申ス也
 累世明君ノ本祖 累ノ字ヲバガサスルト
 讀メリ代々ト云フ義也明君トハ天子也
 トヨリ天照太神ノ御末ナレハ御心モ御コ
 トワザモ日月ノ明ナルゴトクアレハ明君ト
 ハ申スナリ本祖トハ根本先祖ト云事也
 日本紀ニテハ祖ノ字ヲトヲツヤト讀
 實祚ヲ守ラシガタメ 實祚ノ二字ヲ日本
 紀ニハアマツヒツキト讀メリ天子ノ御

位ノ事也周易ニ六位ヲ曰太寶トアリ。祚ノ字ヲハ礼記ハ位也ト注セリ。御即位ノ前ニ踐祚ト云コトアリ。御位ニノホラセラル、定ノアル事ヲ云トフ

蒼生ノ民ヲ云ナリ。民ハ多ハ面ノ色ガ蒼キ故也トアリ

三ノキニヨウヲ顯ハ幡ハ釋迦如來ノ變作ト云事大隅國ハ石體ノ銘ニ見タリ

ハ法身報身應身ノ三身即上ノ佛ニテ御座セトモ。末世ノ衆生ヲ利益セントオホシ

タキニ身如來ノ御カタチヲ改テハ幡大菩薩ト現ジ給ヘル事ヲ云也。容ノ字ヲバカタチトモ。スカタトモ讀ナリ。又願書ニ改

三身之金容トアリ。是ニテハ猶ヨク聞ユル也

二所ノケンヒヲハシヒラキハ幡ニハ應神天皇神功皇后豐玉姬ノ三所ヲ御鎮座ナ

林傳

ル事ヲサシテ云へル乎。又肥後國菱形池
ト。豊後國宇佐ノ宮ト。今男山トノ二所シ
モイヘル歎何レモクルレカラス。ケンヒトハ權
靡トカケリガリハトヒラト讀ナリ本地ハ
佛ナレドモ權リニハ幡ト成テ出給ヒ夕
ル事ハトヒラシ開テ忽ニ出タル様ナト
云意也

シキリノ年 累年トカク也

平相國ト云者アリ 太政大臣清盛ノ事

四海ヲ業ニシ 四方ノ海ノハテマテシ治メ
領ズルヲ云ツ

万民ヲ惱亂世ニム 或時ハ都ヲ福原今
ツレテ天下ノ惱ヲカケ或時ハ榮花ヲ專
ニシ民ノ費ヲシラザル等ノ事也

是佛法ノ怨王法ノ敵ナリ

願書ノ中ニ此句ノ次上ニ蔑猥萬衆焚
燒諸寺ト書タリ。万乗トハ天子ヲサシ
テ云ナリ。孟子ノ注ニ万乗謂天子也トア

大傳

九

リ。鳥羽院ヲ流シ奉ル等ヲ王法ノ敵ト云
也。東大寺ヲ焚ク等ヲ佛法ノ讎ト云也
曾祖父前陸奥守 曾祖父十八才水千ヲ
云也。余雅ノ釋親ニ見エタリ。前陸奥守
十八幡太郎義家ノ事也。義仲ノ父八幡力
先生義賢ト云フ其父八幡判官爲義
ト云フ其父八幡義家也
宗廟ノ氏族 惣ノ伊勢天照太神ト八幡
ト云フ日本ニ所ノ宗廟ニ定ムル也。宗

ノ廟所ト云事也。義家ハ八幡大菩薩ノ御
子トシテ。即ハ幡太郎ト名ヲ付タリ。其
末孫ナレハ氏族ト云也
義仲イヤシクモ其後胤トシテ 右ニ云ヘルガ
如ク。義家ノ曾孫ナレハ後胤トシテト云
ナリ。後ノ字ヲハ文選ノ第五十卷ノ李翰
ガ注ニハ後謂子孫也トイヘリ。胤ノ字ハ繼
也ト注メ先祖ノアトシツクト云義也
此大功ヲ起スコト 昔ハ平家ノ清盛カ討

ニヨリテ源氏一門ヲ滅サレタレハ今又平
家ヲ討キ亡サントノ大功ヲオコスト也
譬ハエイレノ具ヲ以巨海ヲ量 是ハ義仲
ノ卑木ノ語ナリエイレトハ嬰兒ト書ソ
ミトリコレ讀メリ。イカニモ。ラサナキ者ノ
具ヲ用テ大海ノ水ノ多少ヲ量ラント
スルヨリモ。難成事ヲナストノ云事ワ
螳螂カ斧ヲ取テ隆車ニ向カコトクナリ
是モ同ク果下ノ詞ナリ。文選ノ四十四卷

ニ云。欲以螳螂之斧禦隆車之隧云。ヘリ注ニ。
前有兩足舉之如執斧之象也トアリ。螳
螂トハイボシリト云虫ナリ。又ハカキリト
モ云ツ。大ナル車ノガラメキ來時。此蟲モトコ
リ怒ノ深キ故ニ前足ヲ舉テ。車ヲフセキト
トメントスル也。是ハチラ又事シスル無用ノ
義ニ譬ヘテ云ソ。隆車トハ大車也ト注セ
リ。隧字ハ轍ノ字ト同シ意ニ用ルナリ。又
莊子ニモ。汝不知大螳螂乎。怒其臂以當車

轍不知其不勝任也ト云ヘリイツレモ聞エタルカ如シ

君ノタメ國ノタメニコレシヲ起スナリ 吾門ノ

遺恨ノタメハカリニ非ス清盛ハ既ニ王法ノ

敵ナリ又万民ヲ惱亂スレハ日本國ノ敵ナ

ルホトニ靜謐安穩ナラシメントテ起ス

軍也

神明納受ヲタレ 神ノ御心ハ鏡ノ明ニシテ

メ受テ給テ軍ニ勝ツ事ヲ得シメ給ヘト願
ヲカクル也

壽永二年五月日 壽永ハ安德帝ノ年號

ナリ二年ハ癸卯ノ歲ナリ日トハ十一日ト願

書ニアリ

カスフ矢ヲ神前ニサケ 右ノ願書ト十三

ノ表矢トシ拔テ折節雨フリケレハ義シ

著タル男ニシテ下ニ隱シモ夕世テ忍ヤ

カニ八幡ノ御前へ進タリト見エタリ

五月ヤ三番ノ比ハ必雨カ節々フリケル故ニ

ヤニトハイヘル也十日ノ夜半人比ノ詩ヨ

世ト見エタリ也

ギヨリシクワクヨク定モナシ 是ハ皆陣ノハリ

ヤウ也八陣ノ圖トテ軍法ニアリ其中ニモ

此、事肝要也先ツ魚鱗ノ戦トイヘルハ先

キ細ニ中フトニ魚ノ鱗シ並タルヤウニ馬

ノ鼻シ立テ並フ鶴翼ノ軍トハ鶴ノ羽

ヲ小勢ヲ中ニ取籠ル支度也

シシクウ一ムラ飛來 神火トハ思ヒモヨラサル

奇特ナル火ト云事也

キウテウヲ戴 鳩鳥ノコトナルベシハ幡ノ御

使ノ鳥ト云フ故也

忍辱ノ鎧 法華經ニモ當著忍辱鎧トアリ

忍ノ字ヲバコラユルト讀ナリ辱ノ字ヲバ

忍カシムルキヨムノ無理ナルコトヲ云カケ

テ。耻辱ヲカスルヲモ堅堪忍スルヲ堅キ

鐵ヨロヒヲキテタウゼン刀箭イハヲ痛イタニ恐コソレザルタトヘニ譬タトヘタリ

惡魔降伏 魔下云ハ具モニ魔羅モラト云也此

ハ天竺チクノ語ゴトハナリ。大唐タウニテハ障ヤウト云フ或ハ

佛道修行スルニ障ヤウ礙アイヲナシ。或ハ何ナニニテモ

善ヨキ事コトヲ思オモヒ立タツニ妨サマシヲナスク魔マト云ナリ

攝セツ大乘論ダイジョウロン音義オンギニ梵バン言ゴン魔羅マリ此譯コノトキ云障能

為タスニ修シュ道ダウ作サスリ障ヤウ礙アイ也ト云ヘリ此外コノトキニ敬者ト

モ名ナケ又マタ惡アク殺シツトモ云事アリ。如此コノトキノ惡アク魔マ

ヲ佛法フツポフノカカヲ以ヨリ對タイ治チスルク降カウ伏ブツト云也

雪ユキノニツエハ下カク枝カク下カク也

チリヒチノコトク 古今コノトキノ假カ名ナ序ジヨニタカキ山

モフモトノチリヒチヨリナリテアクモニ雲クモ々々ナニ

クマテオヒノボルガゴトニトアリ。塵チリツモリテ

山下成ト云事也

チイロ 千尋チントカクナリハ尺シツヲ尋ジント云ホ

トニ千尋チンハ八百丈ニアタルゾ

山ノ邊ニ...
平家物語ニ公長門ノ壇ノ浦赤間關大海ニ

大原御幸

女院ヨウイン太原タヘへ山ヤマ居ノ年シ文治元年九月末至

法皇ホウノ御幸カダハ文治二年四月二十一日也

後鳥羽院ゴトヨバニ仕シ奉ホウル臣下也シテ毛モ此度コノタビ先帝センテイ

二位殿ニイニヲ始ハジメ奉ホウリ平家ノ一門九州長門ノ

國ハヤトモノ浦ニシテ悉シツ果ケテ給タマヒテ候

九州長門ト云イハ事コト不シ審シナリ長門公山陽道

也九州ニ非アラズハヤトモノ浦ニシテ上ウヘ謠ウタニハアリ

平家物語ニ公長門ノ壇ノ浦赤間關大海ニ

大原御幸

平家ノ一門入水トアリ元曆二年三月二十四日卯刻トアル由山中檢校申ス也

臣下 大臣以下也

先帝 安徳天皇ノ御事也

二位殿 太政大臣平清盛公ノ妻

安徳天皇ノ御祖母女叙位トテ禁中ノ女中衆モ一位ヨリ五位ニテナシ候大臣太

納言ノ女中モ解通ニ二位ヲ叙申也

平家一門 清盛公ノ一類也

女院 ニヨウ井ノ常ノ音ハニヨ也各目ノ時

ハ別也建礼門院徳子

安徳天皇ノ

母岩平清盛公ノ女也

範頼 參河守ノ頼朝卿弟也

大夫判官 大夫ハ五位判官ハ左衛門尉也

義經 頼朝卿弟也

兄弟供奉ニ申シ三種ノ神寶コトユヘナク都ニ

納リ給テ候 兄ハ下ニ也範頼ヲ云弟ハト

キ義經ヲ云但此時女院ヲ供奉アリシハ

大原能幸

義經ハカリ也。三種ノ神寶コトニテナク
 ト云モ不審也。此時ハ神璽十内侍所
 計。二種ハカリ。ニヤコ上ル也。寶劍ハ海ニ入
 テウセタリ
 ホタイ 菩提十八天台云菩提名道眞
 智名矣菩提ハ天竺ノ語也。コ、ニ佛道ヲ
 示ル義也。佛ヲ智者ト云イハレ也
 寂光院 大原ニアリ
 法皇 院ノ御所ノ御法體ヲ申也。此

本ニ法皇ハ後白河院ノ御事也
 御幸 院ノ三ユキヲ申也
 行幸ノ路ヲモ作り コ、ハ法皇ノ御事ナ
 シハ。御幸タルベキ敷トコレモ檢校申ス
 山里ハ物ノサビレキ事コソアレ。世ノウキヨリハ住
 ヲカリケリ 世中ノウキヨリハ山里ハ住
 ヲキフレ、キ竹ハシラ 竹ノフシト云カエテ也
 々サキノカツラ ナガクツタフ心也
 アラツ、ラ 青葛

草顔淵ガ千一タニシケキ思ヒノユクエトテ雨

原憲カトホソトモウルホフ袖ノ涙力ナ瓢箪

屢空草蒸顔淵巷藜藿深鎖雨濕原憲

樞朗詠ノ詩直幹作也詠ハ顔淵上

云賢人ハ一物ヲタクハスメ水ヲモヘウタン

ニテノミタル也。陋巷ニアリトテイヤシキ。

千一タニ居タル者也。原憲ト云賢人ハ

繩樞ト云繩惟布ノウ千ニ居タル物也。此

詩ハ心ハウタノ中ニモ水ヲヘタクノ顔

淵ガ如クナルイヤシキ巷ニシカモ草シキ

クオヒタリ。藜藿ト云ハアカサ也。藜モ藿

モアカサ也。此草オヒシケリテ。原憲ガ繩

ト布ニシカモ雨ガコノ藜藿ヨリツタヒ來

テトボソラウルホスト作レル詩也。コノ謡

ノ心ハ我袖ノ涙ニウルホフハ原憲ガ戸ホ

ソニ似タルト云義也

大納言ノ局鳥飼ノ中納言コレハ子ノ息女

五條大納言園綱ノ養子安徳天皇ノ御

乳久也

供御言御膳也

悉達太子ハ淨飯王ノ都ヲ出テ檀特山ノ

サカシキミチヲシムキナツニ水クニ薪トリサケ

サニ難行シ仙人ニツカヘ給ヒテツイニ成道ナル

是ハ中天竺摩訶陀國淨飯王ノ子名ハ

悉達太子ト云フ十九ノ御歳檀特山ニ

ノホツテ阿羅々迦摩羅ノ三人ノ仙人ニ

ツカヘテサケニ難行シ三ノ歳ニ成道

樹ノ下金剛座ノ上ニテ成道ニ給フ也成

道トハ佛ニナル事也

花カタニ花籠花ヲツミイルカコ也

九重ノ花ノ名残ヲ尋ツ青葉ヲシタフ山路哉

下ニハ分別ナシ

フカニ草牡丹ヲ云コハ草ノフカキトイハシ

御下申候此本ニ大原へ入御ト申候不審

御帝王ノ御座敷ヲオク御入候ヲ个

御下申候此本ニ大原へ入御ト申候不審

御下申候此本ニ大原へ入御ト申候不審

御下申候此本ニ大原へ入御ト申候不審

ノ事也。惣ノ侍臣ノ衆モ入御ノ礼ハ御以候

殿覽 帝王院御所モ御覽せラルノ事也

池水ニ三ギハノ櫻千リキテ波ノ花コソサカリナリ

ケレ 花ノ千リウキテ波モ花ノサカリト也

波モ花ノ如クト也

ワリニケル岩ノヒヨリ落クル水ノ音サヘヨシ

有テ緑蘿ノ垣翠黛ノ山 緑蘿垣翠黛山

遠山ヲ一ユスミノボシホリトシタルニタトヘタル也

一室ハ御堂ヤリ 堂ニ間ト有ハシタル也

薨破霧焼ニ不斷香ニ扉立落月挑常住燈

イラカハ瓦ノ軒ヲ云イラカヤブレタルフルキ

堂ナドニハ不斷香ヲタクベキ人モナケシ

ゴイラカノヤブレヨリ霧フリ入テ香ノ煙ト

成也。扉モ落テアシタル體ナレバ常住燈ト

モス人モナレ月扉ノ落タル處ヨリサシ入

テ。常住燈ニナルト云義也

是ナルコソ女院ノ御菴室ニテ有ケニ候

テニハ六カ敷ハ候ヘドモ如此モアルヘク候乎

万里小路中納言 平家物語ニ公此人ノ

名キコエズ其時ノ御伴ハ公卿六人天

上人八人トバカリアリテ下々ニ其名ラハ

載ス徳大寺花山院土御門以下トアリ

其内徳大寺ハ其比左大臣也花山院カ

子トサノ卿其比中納言也コレヲ見テ

ヤケリ万里小路中納言ト作レルカト山

中檢校申ス土御門ハ其比宰相中將也

信西 少納言通憲入道也 大納言也

先帝ノ御面影ウスルノ際ハヨモリニ

安徳天皇ノ御事也

極重悪人 一ニハ殺父二ニハ殺母此父母

ハ敬奉ルベキ事ナリトイヘドモ殺故ニ逆

惡ト云也三ニハ殺阿羅漢々々々ト公天竺

ノ詞也大唐ニ公無生ト申也無生ト迷ノ

夕子ヲ悉破盡再迷ノ生ヲ受ガル故ニ無

生ト云也迷ノ種ト申ハ見事聞事ニ迷

ヲ云也。此羅漢ト申ハ見事聞事ニ不迷

ノ石瓦枯木ノ如クニ成テ。何心ナキヲ

阿羅漢トモ無生共申也。四ニハ破和合

僧トハ出家ト申者ハ心ニカトナク和合

合テ。我人ノ間ニオ并テ。万ノ事ヲアテ

サルヲ。僧ト申也。僧三人トモ集ル者

中人能テ和合僧ト申也。此中ヲイヒサ

タケ引破ヲ破和合僧ト申也。此五ニ逆

ノ字ヲ付テ外ル事ハ餘ノ惡ニ替リ各

徳ノ勝タルモノヲ殺シ破ガ故ニ五逆ト申也

故ニ五逆ヲ造人ヲ極重惡人ト申也。五ニハ

出佛身血トハ釋迦如來ノ如ク生佛ノ御

身ヨリ血ヲ出スヲ申也

無他方便。他ト申ハ自ニ對スルノ詞也。今

他ト云ハ念佛ノ外ノ御法ヲ申也。自ト

申ハ念佛ノ事也。方便トハ衆生ノ佛ニ成

テサシキタヨリヲ云也。タハ餘ノ教ハフカキ

御法ニハ愚癡無智ノ者ハ不叶カユニ無

他方便ト申也

唯稱弥陀 唯ノ字ノ心ハ一向ノ義也。稱弥

陀トハ一筋ニ念佛ヲ唱ルヲ申也

得生極樂 得生トハ極樂ニ生ラ云也極

樂トハクルシニキキヲ極樂ト申也

成等正覺 成佛ノ義也。然ルニ等正覺

ト云ハ先ツ等ト云ハトシ

未ト讀也。ツレヒトシキイ。シハ諸ノ佛ノ

覺ハ同キサトリ也。其サトリトハ一切ノ

マヨヒノ夢サメテ。是非取捨ナク。何心ナキ

ヲ覺ト申也。然ルニ迷ノ夢トハ譬ハ人

和子イリテ。月ヲ見。華ヲ見ト思フガ如シ。

サメテ見ヌシ。月モナク。花モナキガ如ク

入々未生以前ト。百年ノ後トヲ引合テ

見レバ其間ハ夢ニアラスヤ。マヨヘル人ハ。此

理ヲ不知サトレル人ハ。此理ヲ知ルガ故ニ。ウ

キ世ノアリサニ。ドハサレハサトリトモ。夢サ

メタルトモ云也。是ヲ成等正覺ト申也。

南無阿彌陀佛 天竺ノ詞也。大唐ニ歸命
 無量壽覺ト申也。其ニツキ。南無トハ
 天竺ノ語也。大唐ニ歸命ト申也。歸
 命トハ除陀ヲ敬ヒタノミヲカク心則
 南無ト出ル也。阿彌陀トハ無量壽トハ
 フコトバ也。無量壽ト云ハ壽ハカリテト
 申事ナリ。佛ノ字ハ覺也。覺トハサトリノ
 事也。迷ノ夢サメタル事也。是ヲ極樂ハ
 去ト佛ノ名ヲ南無阿彌陀佛ト申也。
 シカラバ先ニアラハス成等正覺南無阿彌
 陀佛ト申ハ成等正覺トハ成佛ノコト
 ナリ。女院大原ノ奥ニ閑居ノスニ井ヲ
 ナシ給ヒテ。ツ子ニマウシタヘル御念佛ハ
 ヒトヘシ。主上ヲハシメ奉リ。二位殿ニ門ノ
 入之。成佛セシメ給ヘト。除陀ヘイノリシカケ
 テ。タノミ給フ心ヲ成等正覺南無阿彌
 陀佛トハ申也。
 妄執 妄ハミタリトヨム。妄念ノ事也。執ハ

執着トテ。物ゴトニ取付テハナレヌ心ヲ云也

エングノ世ハ閻浮也須弥山ト云山ノ南ニ

洲アリ。其名ヲ南閻浮提トイフ。此世界

ノ事也。是ヲエングノ世ト云カ

一念ノ窓ノ前ニ一念トハ。下聲ノ念佛也。

窓ノ前トハ。一旦念佛ノ行者居住ノ處

ヲ指テ云也。一旦トハ。シバラクノ事也。且

トハカリノ事也

攝取 剛キサトル義也オサトルトハ念佛

申者ヲバ。阿弥陀ノ念カニテ惡道ヘオト

サス必極樂ヘオサトリ給フヲ由也

光明 弥陀ノ光ニ色光ハ心光トテ。ニセウアリ。

色光トハ。佛ノ御身ヨリアラハレテ。遍ク

テラス光明也。サテ心光ト申ハ先ノ色

光ノアマ子クテラス光明ノ中ハ佛ノ御心

ヲツテ。念佛ノ行者ノミヲ照シ給フヲ

心光トハ申也

十念ノ染ノ罪 十念トハ十聲ノ念佛也。

柴ノ薪トハ山居閑居ノ徒然ナルスニカ也

聖衆來迎ハ聖衆トハ極樂ノ佛菩薩ヲ

云也佛菩薩ヲ聖衆ト云事ハ迷ラハナレ

覺ニ至リタマフ衆ヲ聖衆ト申也衆ト

申ハ弥陀觀音勢至等ノ事也觀音トハ

音ラシルノ心也其識ハ慈悲ノツカサニテ

身ヲ變メ迷ノ人ヲタヌケ給ヘハ觀音トハ

申也勢至トハハキ大ニハハキトヨム也

キホロイタルトハ何クヘモ至テ衆生ヲ助

給フ故ニ勢至トハ申也觀音勢至等ヲ

菩薩ト申事ハ菩薩トハ道心アル人ト申

心也道心トハ我身モ佛ニナラントオモヒ

此人ヲモ佛ニナラント思テ人ヲ助クルヲ

菩薩トハ申也

叡慮 帝王ノ御心也此本ニ叡慮ハ法皇也

大原ヤセシウサト 芥生 山城ノ名所也

オボロノ清水月ナラテ 朧清水大原ノ

下内名所也

大後拾遺

三クサ井ノ臈ノ清水底ス三ノ心ノ

月ノ影ハウカスヤ

北祭賀茂臨時ノ祭也。歌道ニハ冬ニテ候

北ニツリ賀茂ノ祭ヲ申也。四月也。又臨時

ノ祭十一月己ヲ北祭ト申モアリ

夏木タチ夏ノ若葉ナリ

寂光ノシツカナル 寂光ハ寂光土ノ名也

ツカナル光トハ寂光也

玉ニツカエ 玉ハホメテノ詞也

青葉カクレノソノ櫻初花ヨリモメツラカニ

餘花初花ヨリモメツラニキト也

カケミクモカタジケナシ カケテ申モ忝ト也

思ハスモ三山ノ奥ノ住井ニテ雲井ノ月ヲ

ヨツニミントハ 此歌コト十九事ナシ

ニハムツカシ

サイツコロ 近曾 過去タル比也

身ヲ觀スレハ岸ノヒタイニ子ヲハナレタルヲ

命ヲ論スレバ江ノホトリニツナガサカハル船

觀身岸額離根草論命江頭不繫船

朗詠ノ羅虬カ詩也言ハ身ノ上ヲ觀念

スレバ岸ノヒタイニ生レタル草ノシカモ

根ハ岸ヨリハナレカ、リタル如ク也命ノ

ヲ多ナルヲ論スレバ江ノホトリニツナギス

テ、置タル船ノゴトニト也

玉鬘 髮ノ事也コ、ハナカキトウチテ也

五衰 五ツトロフルトヨハ是ハ天人ノ事也天

人常ニハ飛行自在万事悉ノマ、ニメ。色

身宮殿タヘナレドモ命終ラントスル時五ノ

衰姿現スルヲ五衰ト云也夫ト云ハ一ニハ

頭上華萎此意ハ人ハ生レナカラニ

テ。頭ノ上ニ色香タエナル花鬘ノ冠出

生ス春秋ノハタテナク常ニ娛ヌリ然ルニ

死セントスル 研先冠ノ華シホニ色香衰

予其形見苦クナルヲ五衰ノ第一トス
 二三六腋ノ下ヨリ汗出是ハ天人ハ常ニ
 其身清淨ニテ瑠璃ノ如ク然ルニ死セン
 トスシ故先腋ノ下ヨリ汗出不淨ノ相アリ
 リ是ヲ五衰ノ第二トス三三六項中ノ光
 滅ス是ハ天人ハ常ニ身ヨリ光ヲ出シ日月
 ノ光用ヲカラス故ニ晝夜明闇ノ不同ニ
 十然ルニ死セントスル時先項ヨリ出ル
 處ノ根本ノ光滅ス威勢石ナク是五衰
 ノ第三也四二八兩目數聯ト云ハ天人ハ
 常ニ六根自由ニテ意ニ叶ハズト云事ナシ
 殊ニ天眼通トテ眼ノ用最モ甚ク然ルニ
 死セントスル刻瞬節々ニテ顔見苦ク十
 九是五衰ノ第四也五二八不樂本座意
 ハ天人ハ常ニ行住坐卧自他ノ宮殿互
 ニ戲樂シテ惱メシキ心少モナシ然ルニ
 命期ニ臨ム時自身ノ宮殿七寶莊嚴ノ
 自然ノ臺ニ樂意ヲウシナシ他所ニ行テ

大原御幸

十四

毛心面白カラサル事ヲ云已上五衰ノ
相如此今謠ニ引用ル意ハ昨日ニテハ
天上ノ玉殿ニ雲ノ鬢ヲ乱シ色香花ヲ
妬シ毛忽ニ引カヘカ、ル淺間敷キ形ニ成
給ヘリト五衰ニ引合タル心ナルベシ

六道ノチマタ 六道衢トハ一ニハ地獄二ニハ
餓鬼三ニハ畜生四ニハ修羅五ニハ人道六
ニハ天道地獄オホケレドモ八寒八熱此界
ノ地ノ下ニアル故ニ地獄ト云也餓鬼ハ惠

心云明餓鬼道者住處有二一者在地下
二者在人間矣慳貪ノ業ニヨリ餓鬼ト
成也畜生トハ惠心云惣論不出三一者
禽類二者獸類三者蟲類矣阿修羅トハ
惠心ノ云為諸天之所侵害種々憂苦不
可勝説矣帝釋修羅ノ夕、カヒノ時諸天
ニ殺サレ也爰ヲ侵害ト云也人道トハ
惠心云一不淨相二苦相三無常相トイ
ハ天道トハ惠心ノ云一者欲界二者色

界三者無色界矣

飲水せス 水ヲ之ヌト云義也

舟ユヅリツ、船中ノ人ノアツクニ心也

伊勢物語ニアル詞也

叫喚ノ罪人

叫喚ハ地獄ノ名也。罪人ノ罪

アル人也

陸ノアツト

陸ノ義也。此前三海中ノ事

ラ云タル故ニコレカラ陸地ノ事ヲ云義也

長門國ハヤトモ

長門ノ在所也

ヲカタノ三郎

豊後ノウタケノ大蛇日向

ノタカヲヲノ明神ノ神體也。其子ヲカノリタ

イタヨリ五代ノ孫也

サツクカタ サツクカタ澳ノ小島ニ我アリトオ

ヤニハツケヨ心アヒノカセ

ノホリ塩ニ

塩ノサスヲノホルト云也

能登守教經

門脇中納言經盛卿子。清

盛公姪也

新中納言 中納言新任ノ人ヲ申候。攝家

ヲバ。新中納言トハ不申。稱号ニ中納言

ヲソへ申候。譬バ近衛中納言。一條中納

言トド申候。大納言モ同前也

知盛 中納言從二位 清盛公四男

メノトゴバ 家長カ弓ト弓トヲ取カハシ其ノ

海ニ入ニケリ 平家物語ニ公乎ニ手ヲ取

クムトアリ。弓ノ沙汰ハキヨシ。コレモ檢校申也

ニブ色ノ二衣 鈍色ニヒ色ト云。服者ノ著久

ル色也 花田染也

安德天皇 人皇八十一代

今ノツシルニモスツ川ノナガレニハ波ノ底ニモ都

アリトハ 神書ニ所見ナシ

御製 帝王ノ詩歌トドラ。アツバ花ヲ申也

千尋ノ底 海ヲ云尋ハ七尺也。千尋ハ七十

尋丈也。所詮フカキ海トイハンタメナルベシ

源氏ノ武士トリアケテ 渡邊源五右馬允

大馬路

睦上云若女院ヲ海ヨリ取アケル也

龍顏 帝王ノ御面ノ事也

不覺ノ候 オホエス決ラナカシテ云義也

ハヤ還幸トス公レバコノ法皇ナレバ還御ト

コソ申ベキラ。還幸ト作レルハ不審、凡

由檢校申也

ウトフ

夕テ山 越中名所歌ニハ夕千山トアリ

夕テ山セシモウ 立山越中國ニアリ。富士

禪定ノ事。此禪定ト云字ヲ用ル事。字面

立ハ不聞コノ高山ニ登シバ離世間即禪定

三昧ニ入タル心ニテ云乎。彼山胎藏界金

剛界兩部ヲカタルト云。縁起ニモ右ノ意

ニ書タル乎。白山立山ヲ加テ。三禪定ト云

ト也。三十三天ノ内初禪ニ禪ノ儀モ此界

立山地獄

ハ散亂麁動ノ心ナレバ禪定不成初禪以

上靜カナル所ナレバ此高山ニ登シバ他念無

レヅカナルヲ以禪定ニ入タル心モ可通乎

行脚 是ハ唐音也字面ノトクユクアリ也

立山地獄 觀音ノ化現ノ地獄也惡事アリ

ハ如是千ゴクニ落テ受苦人ニ三セシメシガ

タメ也經云ハ寒ハ熱奈落伽木悲一入代

受苦矣ハ寒ハカンチユクハ熱ハ子ツ千ゴク

悲ヲ以テ罪人ニカハツテ若クテ受テ衆生ヲ

ヤスメシトノチカヒ也 鬼ト云モ神ト云モ皆

鬼神ヨリ猶オソロシヤ 鬼ト云モ神ト云モ皆

タメレヒトヨム也ユハニイヘルハ鬼トテ熊野

火縁起ナドノ繪ニ書タルアリサマヨリモ此

地獄ヲ眼前ニ見ナガラソレヲナサテ罪ヲ

作ル者ノ心ハオソレキト云義也

惡趣ノ險路 四惡趣アリ地獄餓鬼畜生

修羅此道ニ行テ苦ヲウタルユハニケンロト

ツタフ

二

ハンギ心 慙愧ト云ハツル也。地獄ヲ見テ

モヲソレヌ事ヨト。我身ヲハ千タルナルベシ

山下 山ノ下ニクタルナルベシ。慙愧懺悔ト云

事下レバ。山下ノコエヲカリテ。秀句ニイヒツ

ツケタルナルベシ 陸奥名所 三千ノクノオクユカシ

ソトノ濱 陸奥名所 三千ノクノオクユカシ

原クゾオモユルツボノ石文ソトノ濱風 西行歌

レウシノ獵師ハ生物ヲコロスコトヲ業ニスル也

身ヲカリテ候ハニ身ノナク成タル也。死スル事

也罷ノ字 イマハ入時 死スルキハ事也 臨終也

木曾ノマサ衣 信濃ニラレルキヌ也。布トモハ

雲御抄ニアリ 木ノメモユル 木ノ芽ノ萌ル也

客僧 旅スルソウ也。文選ニテ。客ノ字ヲ。

タヒトヨム也 立者 十キ人ト云心也

恩愛 恩ハタガヒニメグミヲウクル心。愛ハ

クニ

テウアヒノ心也

四糸ノ田長田ウフル時分ニ鳴ト也時鳥

ノ異名也歌幾バクノ田ヲツクシハカ時鳥

スレテノ田長ヲ朝ナクヨラ

ニノシロ衣衰代ニキタル衣也亦身ノ代ニモ

用タルアリ

マトラニラレル藤衣 箴ノアラク藤ナドニテ

ラレル衣也マトラトハメノアラキ事也服衣

ヲ藤衣ト云モ鹿相ナル心也

南無幽靈出離生死頓證菩提南無

命也佛ニ命ヲ奉ルハ志ヲアラハス義也

幽靈トハ死人也其セイレイヲハ宗鏡録ニ

知ク佛性不知云精魂矣死スレバ佛性ト

ナル佛性ハカスカニテ見ルコトアタハサル所

ヲ幽靈ト云也出離生死トハフタヒ生

トスト云也菩提ハ天竺ノ語此ニハ菩提名

道直立智名矣菩提ヲ此ニハ道トナツク佛

ニナルニナラシル故ニ智ノ名ヲタツトハ云也

ツタカ

四

三千ノクノフトノ濱ナルヨブコ鳥鳴ナル聲ハウ

トフヤスカタウトフハレズヤスカタハ在名乎

一見ツトハヤウリニアク道一見卒都婆永離

三惠道。依此五字ハ地水火

風空也見之地獄餓鬼畜生道ハナル

ナリ梵字ト云ハ天竺ハ梵天下云天人亦

字ヲ教置也此梵字ハ天ノ語ナレバ一字

ニオホクノ義理ヲ含ムハ漢字ヨリ功德

アルナリ。入テノ五字ヲ大白ノ種子ト云

都婆ハ大白三摩耶形也依之ソトハツ

クハ必生安樂國矣サマヤキヤウトハ天竺

ノ語。爰ニ八本誓ト云佛ハ本來人ヲタス

佛ニ干サント千カニ給故ニ此五字ヲ以テ

本誓ヲアラス義也

タトヒ拜シ申タリトモ拜トハソトハヲオカミ

ハタルハカリ也トモト云心也

造立供養 供養ニツイテ悲由敬由ノニアリ

三寶ニクウスルヲ敬由ト云非人ニホドコ

ウタフ

五

スヲ養ト云是ヲ悲由ト云何モ福田ト成故也

紅蓮クレン大紅蓮ダイクレンナリトモ各号カク千クワニハキエ又

ベシハ紅蓮クレン大紅蓮ダイクレンナリトモ各号カク智火チカニハ消キ

スベシトハ名詮ミヤコセ自性ジジキョウト云テ各ハ自性ジジキョウヲノ

ズル故ニ佛ノミナラ唱ウタレバ其佛ノ智火チカ了

ラハレテ紅蓮クレン大紅蓮ダイクレンノ寒地獄サムジヤクノ氷ヒナリ

トモ消又ベキ也傳教デンキョウ云一稱ヒトナリ各号カク者功

徳如虚空トクニヨソウクウ矣此心也

世ウ子セウジツ大世ウ子ダイセウジツナリトモホツホツハイハイニハ勝カチ上ノ佛法

云雨フラス大法雨ダイホウ矣此心也

日ニチニサウサウ口惠クヱ日ノ日ニテラレ給ヘ

衆罪シュサイ如草露ニヨサロ惠日ヱニチ能消除ニキヨクトハ觀普賢經

ノ説也衆罪シュサイハ皆見事聞事ミタコトヨリ起タル中ニ

末毛禽獸トモウノ味アジヲ不忘ワスレ殺之コロス其妄念マコトヲ尋タテ

證アトハ自性ジジキョウナシ譬タトヘハ寒來サムクテ水結スミヒテ氷ヒト成ナル

如タトヘシ本來無ト觀スレバ罪障サイショウハ霜露シヤウロノ如タトヘク

消滅スル也

塩アシシホ塩ノサス所ニアル蘆ナルベシ

末引シホル 引ヨスル心乎折コトニモカヨフベシ

トガキガ島シマシホガクノウチノ籬ガ島名所

ナリ陸奥也

トヤカタ 昔屋ノ方乎屋形乎

カコフ 垣ヲ圍事也

ワタヤウノ雲人々下 横障ノ雲トハ惠日ヲ

カクス雲ナレバワウレヤウト云也

姫小松ヒメコマツ小松トイハトモタハ松也ヒメコマツ也

木カクレノ里 木隠ノ里乎木カケクマツ里ナルベシ

ワタノカサ松 輪田三崎攝津國八田部郡

年トシ登ニ似タル松ナルベシ 下枝シモエテカハ

葛ハ紅葉シテ錦ヲハレル和田ノ笠松カサマツ季經

三ノオノ瀧 攝津國也歌ニ不讀箕面物ヲ

ヒル三ノ面トカケリカサ松ニ對シテ三ノオトイハリ

松島ヤ雄島ノトヤ 陸奥官城郡内ユカシ

我ハ外ト云心也

往事渺茫都似夢舊遊零落半歸泉

白樂天ガ詩也。往事トハ毎月日時ノウツ

リユクコトヲ云也。渺茫トハヒロクハルカナル

心也。毎月ノミナラス世間ノウツリカハルア

リサテスベテ夢ノゴトシト也。舊遊トハモト

我友ニシテ遊戯シ人ヲカゾヘ見レバ百

人ノ内五十人程ハ三十黄泉ノ旅ニオモ

ムクト云心也。泉ハ下界ノ心ナレバオツルト

云也。零モ落モオツル也。歸ストハ落居ス也

渡世ヨヲワタル也

士農工商士ハサフヒ農ハ耕作スル者工

ハ大工カキ以下。物ヲ作出ス者ノ類ヲ

云商ハアキ人也。是ヲ四民ト云事林廣

記ニ三エタリ

琴碁書畫ヲタレナム。琴ハコト碁ハゴツ事也

書ハ物カクコト。畫ハエカク事也

殺生生タル物ヲ殺ス事也

千ハタル春ノ日。遅々日ノ出ル事モク夕日ノ

ウタフ

暮ル、事モシソキヲ云ナガキ日トイハシタメ也

レヨサタラ子バ時ヲウレナヒ 所作也其日ナス

所ルレワガタラ子バ時刻ヲウツスト也

イサリ火 漁火ト書ツリスル時ノ燈也

九夏ノ天モレヨヲワスレケンノウ朝モサカカス

九夏トハ夏三月九十日ヲ云云冬トハフカキ

冬也言ハ夏ノ天ニモ暑氣ヲワスレフカキ

ニ夕モサムキ事ヲワスレテ殺生ニ心ヲイルト也

追鹿獵師不見山ヲ碧岩ニアリ。言ハクハ

ツケズレテ行心也

忘草ノ逐鳥高繩ヲサレ別塩 ワスレ草ノ生

ヘウケタル秀句也

未ノ松山 奥州名所歌 君ヲハキテアタシ

心ヲ我モタハ末ノ松山波モコエナシ 海

邊遠間波ハコエマシケド。君下我中ハカ

ハル事アラジカハラバ末ノ松山波モコエト

只アルマシキ事ヲヨメリ

ウダフ

ヒカタ 干瀉也 塩ノヒカタ也

千賀ノ塩竈 奥州名所ナリ

ツクバ子ノ 筑波根常陸名所ツクバ山ノ事也

波ノウキ巢 水鳥ノ巢ハ波ノ土ニカクルモ

アリ 鷺ハ梢ニカクル也 鷗ウキ巢也

ヘイサニ子ヲウミニテラクカシノ

平沙落鴈ハ景ノ中ノ一也タイラカナルイサ

也ラクガンハオチタル雁也

ハカナヤ タバツ子ニ云俗言ノ心也

カクシ 義カクシ 故事不知 拾遺集歌

忍ヒタル人ノモトニツカハシケル 平公誠

カクシミノカクシ 笠立ヲモエテシカナキタリト名

ヒシラレガルベク

紅葉ノ橋ノカサハキノ 七夕ノ天河渡リマ

レニス時 紅葉ノ橋ニワタスト也カサハキ

ノ橋ハ 鶺鴒ノ橋也鳥ノ羽ヲ橋ニシテワタリ

給フト申ナラハセリ 古今歌 天河モミチヲ橋

ウダフ

十

夕夕

ニウタセハヤ。セタツタノ秋ヲレモツ此歌ノ

心ハ秋七夕ツ橋ニ紅葉ナドニテ結

構ニスルト云心也。カサ、キノワタセル橋ニ

ツクノ霜ノ白キヲニシバ夜ヲ深ニナル此カ

サ、キノ橋ハ只空ノ事也

シヤバ、婆婆トハ天竺ノ語也。此ハ翻堪忍柴

界ハ若ガカリナルヲカンニシテ不厭故也

メイト、真途トハ死シテ後ノ道ナレハ公衆生ニ

テハミル人キユヘニメイドハ云也

化鳥ハ、イモシノ鳥也

ホイシ、罪ノトハツツツクリ。地獄ニ入テ音ヲ

ウクルユヘニ罪アル入ト云也

クロガ子ノハシヲナラレ羽ヲタ、キアカ子ノハ

トキタテ、眼ヲツカシテ、鐵ノ嘴ヲ鳴レ羽ヲ扣

キ銅ノ爪ヲ砥立テ眼ヲ攪トハ此世ニテ禽

獸ヲトルムクヒニヨリテ。如此若ヲウタル也

經云自業自得矣。此心也

猛火下猛々レシ夕、レクモユル火ノ事也

羽又个鳥ノムクヒ 羽拔鳥トハ惠心云。不
 喜處謂有^テ大火炎晝夜焚燒熱炎^キ噉鳥狗
 犬野干其聲極惡甚可怖畏常來食^テ噉骨
 肉^ヲ狼藉^シ金剛^ノ噉^ル蟲骨中^ニ往來而食其髓昔
 吹具^キ打鼓^ヲ作^シ可畏^ク聲^ヲ殺害^ス鳥獸^ノ者^ヲ墮^ル此
 中^ニ矣此意^ニア^ルハ^コノ^ヨニ^テ鳥^ノ羽^ヲ又^キ糸
 タル^ヲ報^スヒ^ニテ。又鳥^キタツ^テ罪人^ノコツ^ニ
 クラ^クラ^クラ^ク歟ト見エタリ。是^ヲハ又^キ鳥
 ノムクヒト云也

カタノ、カリハ 禁野トテ。交野^キ雉^ノ公^ノ禁^中
 へ供御ニミイル也。待場ノ雉也

旅人ニタビ人也

道スガラト夜モスカラニテフ分別候道

行著マテリ間也

又ノ親ノ心ハヤニアラフ子トモ子ヲ思フ道

云ヨヒヌル哉ハ心ハ明也兼輔歌也

道ユキブリ道ヲ行ツイダシ心也

聞ヤイカニウハク空ナル風ダニモ松ニヲトスル十

ラヒ有ト新古今寄風戀ト云題ニテ宮内

角田川

角田川

卿ノ歌ナリ心ヲ空吹風モ松ノ音

スルニ我ニハツ入ノ音信又ト也

都北百川 京ノシラ川ノ事也

思ハカルホカ 思ヒク外也

アツ坂ノ關ハ近江志賀郡名所也

アツ下東アツト讀也関東也

千里ナリハルカ九心也

オヤコノ親ト子ナリ

コヤカレコニ親ト子ノ四鳥ノ別是ナレヤ

四鳥別家語ノ第五云孔子在衛味且是

哭顔回待側聞哭者之聲甚哀子曰回汝

知此何所哭乎對曰回以此哭聲非但為

死者而已又有生離別者也子曰何以知

之對曰回聞桓山之鳥生四子焉羽翼既

成將分于四海其母悲鳴而送之哀聲有

似於此謂其往而不返也回竊以音類而

知之孔子使人問哭者果曰父死家貧賣

子以葬與之長決子曰回也善於識音矣
 四鳥ノ別トハ孔子ノ一期ノ間ノ事ヲ記
 タル家語ト云本ニアリ孔子衛國ニセシ時ニ
 顔回カ孔子ノカクハラニ侍リ人ノナク聲ノ
 ツヨク哀シキヲホシケリ孔子ノ顔回ハ何事
 ヲナゲク音トシルヤト問ハレタシハ顔回
 答テ申様ハ此歎聲ハ死人ノ又ニナクニ
 テハナシ生テ別レタル者ノ為ニカカシムモノ
 也ト申孔子ノ何トハ聞知ソト問ハレタシハ

顔回カ申ヤウハ桓山ノ鳥カ子ヲ四ウハ也
 非翼カオヒソウウテ四方ヘ別テ飛時ニ其
 母悲ニ鳴テ四ノ子ヲ送ル也其鳥ノ鳴聲
 ニ今哭スル人ノ聲能似ルトイフ也顔回鳥
 語ヲキクガ為ニ其音ノ類ヲ以テ知ト申也
 孔子ノ人ヲツカハシ哭スル者ヲ問セラレタシ
 ハ果シテ云事ハ父死シテ家貧シテ子ヲ賣
 テ葬礼ヲスル也只今其子ト長ク別ル
 程ツヨクカナレムト云也孔子ノ顔回ハ音律

ヲ能知タルトテホヌラシタテ。四鳥悲異林下。

文選二十七卷ニアリ。四鳥ノ別トハ此謂レ也。

ハサシノ國トシモツフサノ中ニアルス三及川

シモツフサトハ下総國也。

狂女 物ニ狂フ女也。

業平 左近中將從四位上。平城天皇ノ御

孫也。

名ニシオハ、イサコトハ、都鳥我思フ人

ト我思フ人ハ都ニ心カハラズアルカナキカトナリ

ヲ其ホラホリ江ノ川ノ 舟キソラ心ナルヘシ。

限ナク遠クモキニケルモノ哉 伊勢物語詞也。

都ヲトヲクハカレキタルト云心也。

舟コソリテ是モ伊勢物語詞也。船中三人

不ノアミタコソリタル也。

此人オフハ又旅ノツカレニヤ路次ヨリ以外ニ違

例ニ 違例ハ病人事也。遺例トハイツモ定

南田川

三

一リ夕事ニカフホトニ云也。例ナラヌトモ云也。

ヒレフシ 草卧フシタルユト也。

不得心 人ヲ悲ム心モナク情ナキ者ヲ云也。

カシ病 一ヤヒノテイヲ見テ養生サスル

ヲ云ナリ。看病ト書也。

末期 未ハスエ也。ヲハリトモ讀也。身ノ最

期ヲ云也。

イハナヒ一サツク心同道入心也。

ナルホトニ遺言ニ任セムレヨカハシ也。

ニ柳ヲウヘテ候 遺言トハ未後ニユヒオ

ク詞也。墓所トハカドコロ也。

コサメシ オハシマス。又サアルト云心也。

蒲散 蒲散トハ法事ヲ蒲散ト終ラ當日

トハリテ。子ル日ヲ云也。

死ムエシ 生スルモ死スルモ縁アリ。都ノ者ノ

東人ハテニテ死スルハ死所前世ヨリ定

ハテ縁也ト云心也。

ハ、キハ、三エツカシツ
ツノ原ヤフセヤニ

オフル、ハキ、有トハ、キ、エテ、キ、又君カテ

ウレヒノ花、物思ヒ人花ト云心ニウレヒノ

花ト介ヘリ

無常ノ嵐音ノ毛、生死ヤウヤノ月ノ影

無常ノ嵐トハ、生アルモノハ必滅スルヲ嵐ノ

花ヲ散スニタトタリ、天台大師、生死為夜

ト信ル、依之、生死長夜ト云也、唯識論ニ

未得真覺、常處夢中、故佛説為生死

長夜矣、真ノ覺、十半間ヲ夢中トシテ、憂

世ヲ皆長夜ノ不明譬也、此夢ノ長キ夜

ナレドモ、月ハツモラ、又物也、是ヲ月ノ性ハ

常三圓ナリト説故、生スルモ影死スルモ

ニカケニシテ、實體ナキ處、水中ノ月也

天台ノ止觀ニハ、譬言如嬰兒水中月、得悦

失愁トイヘリ、如此サトルヲ、生死ノ長夜ヲ

テラス月影ト云也

カキクレテ、カキクラレテ也、空ノ俄ニ曇タル

云云也

ウタテヤナコノニテハ世俗ニウタテイト云心也

亡者死シタル者ヲ云亡者離苦ト經云アリ

鉦鼓念佛申ス時モクニ三ノ鼓ク鐘也

コノ三モフセウラクニカケ此身毛鳥鐘

頸ニ繫トハ天竺ノ罽胝吒王人ヲ多ク殺

ストガニヨリテ大地破テ直ニ地獄ニ入ル

那アルカ子ニハ中ニ彼王ノ頸ヲ入テ

頸ヲ押切コトヒマモ十カリシニ佛

苦ヲヤスメシガタメニ維那ニ仰テ鐘

ツカセフルレバ聲アル間ハ頸不切ノ暫ク

其苦ヲヤスムト云云。惣ノ憂世ノユメヲ醒

サシガ為カタク鉦鼓ヲ鳴也

南無ヤ西方極樂世界三十六萬億同

名阿彌陀佛南無トハ天竺ノ詞ナリ。太

唐ニテハ歸命ト申也。歸命トハ弥陀

敬ヒ。頼ヲカケタル心。則口ニ南無ト出ル

ナリ南無ヤノヤトハ詞ノタスケ也。極樂十
 少モ若シナキ處ヲ申ナリ。世界トハ
 國ノ事也。三十六億トハ釋迦在世ハ
 御トキ貧女アツテ念佛ノ申ヤウヲ佛ハ
 問タテツルニ佛教ヘ給ヤウハ一返申テハ
 カスブ一ツトリソノ如ク常ニ可申教ノ
 如ク數ヲトツテ申ユト三十六億也。三
 十六億億ホドマウレタル刻ニ極樂ヘ一
 深キサトリニイタル也。頻婆娑羅王ノ后
 羣提希夫人モ利根ノ女人ニテ一ニセバ
 極樂ノ覺者此世ニサトリ給フ此タケ也
 名ニレオハ都鳥毛聲ノテ南無阿彌陀佛
 名似オウ都鳥毛音副テ南無阿彌陀佛
 トハ大唐天台山人傍道人ノアリシガ常
 ニ南無阿彌陀佛ト申セシハ一兒ト云
 鳥僧ヲ念佛ス口移ニ鳥毛唱死セシ土
 二埋ハツノ所ニ蓮華咲也ユノトキ碑文ニ

云々有一禽靈ハクハク兒我隨僧口念阿弥
死埋平地蓮華發何輩為人豈不知矣ナラ
人意ヲオモヘバ都鳥モ聲コエソテ鳴ナク也
キカカホシシ 聞キタキト云事也

南無阿弥陀佛聲ノウチヨリ幻マヨイニ見エケレ
バアレ我子カ母ニテニスカト互ニ手ニ
手ヲ執リカハセバ 南無阿弥陀佛ノ聲ノ内
ヨリ幻マヨイニ見エケレバアレ五カ子乎母ニテ
如想念ノ往生ヲ釋スル時天竺チンシヨクニ須

門トイヘル美人有リシヲ聞キ戀コヒスル人ノ
夢ニ須門ニ遇アナリ。是ハ思オモヒニヨリテ見
ナリ。須門スモン來ルニアラズ阿弥陀ノ來迎モ
如此コト云。此意也

クホロシ 幻術士真言宗祈キテ奇特ナ
トラスミスルヲ云也
手ヲトリカハセバ フタリノ手ヲ取カハスコト也
シ入メ 篠目ト書。明カクノ事也

亦人々ト云カニト云詞也カサ子詞也

草茫々ト云ハ草茫々トヒロク生茂父几意也草

茫々ト云ハ曲ノ名也白氏文集ニアリ

ノホロム

自然居士

大明國師ト云アリ。其弟子也大明龍吟

菴ト云寺ノ開山也。自然ハ此大明國師弟

子ニテ。東福開山ノ孫弟子也。居士凡具四

德稱居士。一不求仕官。二寡欲。三居

財大富。四守道自悟。居士ニ。四ノ子細アリ。

一不求仕官トアリ。公方へ奉公セス。佛道ヲ

願者也。二寡欲。欲道徳トアリ。欲心スクテクナ

自然居士

大明國師ト云アリ。其弟子也大明龍吟

菴ト云寺ノ開山也。自然ハ此大明國師弟

子ニテ。東福開山ノ孫弟子也。居士凡具四

德稱居士。一不求仕官。二寡欲。三居

財大富。四守道自悟。居士ニ。四ノ子細アリ。

一不求仕官トアリ。公方へ奉公セス。佛道ヲ

願者也。二寡欲。欲道徳トアリ。欲心スクテクナ

自然居士

大明國師ト云アリ。其弟子也大明龍吟

菴ト云寺ノ開山也。自然ハ此大明國師弟

自然居

徳ヲ留中ニツミタル者ヲ云三居財大富ト
アリ。居財居士ト云テ無限ニテ財寶ノ
者大名ナドノ佛法ニ歸服シタル人ヲ云其
内ニテ。髮ヲソラスノ俗ニテ居タル人ヲ居
士ト云ツ。髮ヲソリタル人ヲ居士ト云ハ人
レスゾ。四守道自悟ト云テ。坐禪工夫ノ
自然ニ工夫ノ上テ悟ルヲ云ハ此自然居
士ト云ツキタルハ。守道自悟ト云ノ心ニテ居

雲居寺

詳也

造管

說法

時刻

刻ハ

造管

願ノ

導師

八坂ノ塔ノカミニアリ。元享釋書ニ

造ハツクル。管ハイトナム也。造作ノ事也

佛法ヲトク事ヲ云

時刻時ハ。一日一夜ヲ。十二時二分タルヲ云

刻ハ。一日一夜ヲ。百刻二分タルヲ云ニ云

造管結願ノ說法ノ時トリヲ云ト見エ

タリ

導師高座ニアガリ

導師トハ。三千比丘師ト

讀^{ヨム}トリ。意^{イロ}ハ。人^{ヒト}ヲ善^{ヨキ}道^{ミチ}ヘ行^{ユク}カシメ。惡^{アク}道^{ミチ}ヘユ

カサルヤウニ示^{シメス}ライフ也。十住^{ジュウジュウ}斷^{タン}結^{ケツ}經^{キョウ}云^ク。号^{ケフ}号^{ケフ}

道^{ミチ}師^シ者^ノ。令^シ衆^{シユ}生^{シユ}類^ル示^シ其^ノ正^{テイ}道^{ミチ}故^ニトイヘリ。

高^{カウ}座^ザトハ説^{セツ}法^{ポフ}時^{トキ}座^ザヲ高^{タカク}スルコト也。是^{コト}則^{スレバ}佛^{ブツ}法^{ポフ}ヲ

尊^{ウツク}敬^{ケツ}スル形^{カタチ}也。昇^{ノボ}ト云^フコトハ高^{カウ}座^ザニノホリ。説^{セツ}法^{ポフ}

スル形^{カタチ}ナリ。高^{カウ}座^ザニモ。大^{オホク}乘^{セウ}小^{コウ}乘^{セウ}ノ不^フ同^{ドウ}又^{マタ}説^{セツ}

法^{ポフ}ニモ。大^{オホク}乘^{セウ}小^{コウ}乘^{セウ}ノ不^フ同^{ドウ}アリ。サレハ維^ヰ摩^マ居^キ士^シ

室^{シツ}内^{ノウ}ノ高^{カウ}座^ザニ。大^{オホク}菩^ボ薩^{ザツ}ハ。心^{シン}易^{ヤク}昇^{ノボ}ラレタリ。

發^{ハツ}願^{ガン}ノ鐘^{ショウ}打^{ウチ}鳴^ネ。增^{ゾウ}一^{イツ}阿^ア含^{カン}經^{キョウ}云^ク。若^シ打^{ウチ}鐘^{ショウ}時^{トキ}

願^{ガン}ニ切^{キレ}惡^{アク}道^{ミチ}諸^{シヨ}苦^ク並^{ナラ}皆^{ミナ}停^{テイ}止^シ。若^シ聞^ク鐘^{ショウ}聲^{セイ}兼^{ケン}

説^{セツ}偈^ゲ讚^{サン}得^エ除^{トク}五^{イツ}百^{ヒャク}億^{イツ}劫^{ケツ}生^{シユ}死^シ重^{ジュウ}罪^{サイ}イヘリ。此^{コト}

經^{キョウ}文^{モン}ニ見^ミエタルガ如^ニク。一^{イツ}切^{キレ}衆^{シユ}生^{シユ}ノ苦^クヲトバ

メテ。大^{オホク}樂^{ラク}ヲアタヘント願^{ネガヒ}ヲ發^{ハツ}テ。即^{スレバ}發^{ハツ}願^{ガン}ト

云^フ也。其^ノ時^{トキ}鐘^{ショウ}ヲ打^{ウチ}事^{コト}鐘^{ショウ}ニ多^{オホク}ク。功^{クワ}能^{ノウ}ヲソナ

ヘタル故^ユニ。説^{セツ}法^{ポフ}ノトキ。必^{カナラ}ス打^{ウチ}ト見^ミエタリ

敬^{ケイ}白^{ハク}一代^{イツタイ}教^{ケウ}主^{シュ}釋^{シヤク}迦^カ牟^ム尼^ニ寶^{ホウ}号^{ガウ}

敬^{ケイ}白^{ハク}ト云^フハ。發^{ハツ}願^{ガン}ノトキ。佛^{ブツ}ヲウヤラテ語^{コト}也。一

敬^{ケイ}白^{ハク}ト云^フハ。發^{ハツ}願^{ガン}ノトキ。佛^{ブツ}ヲウヤラテ語^{コト}也。一

敬^{ケイ}白^{ハク}ト云^フハ。發^{ハツ}願^{ガン}ノトキ。佛^{ブツ}ヲウヤラテ語^{コト}也。一

敬^{ケイ}白^{ハク}ト云^フハ。發^{ハツ}願^{ガン}ノトキ。佛^{ブツ}ヲウヤラテ語^{コト}也。一

敬^{ケイ}白^{ハク}ト云^フハ。發^{ハツ}願^{ガン}ノトキ。佛^{ブツ}ヲウヤラテ語^{コト}也。一

敬^{ケイ}白^{ハク}ト云^フハ。發^{ハツ}願^{ガン}ノトキ。佛^{ブツ}ヲウヤラテ語^{コト}也。一

敬^{ケイ}白^{ハク}ト云^フハ。發^{ハツ}願^{ガン}ノトキ。佛^{ブツ}ヲウヤラテ語^{コト}也。一

代教主トハ佛一代五十年ノ間一切經ヲ説給
 教主トシテハ釋迦一代教主トハ云也。太莊嚴經
 云隨應演説法教化諸羣生能到於彼岸
 故名爲教主。矣寶號トハ三寶ト云故ニ
 寶ノ字ヲ加タル也
 三世諸佛十方薩埵 三世諸佛トハ過去ノ世
 ニモ今現世ニモ亦未來世ニモ悉佛世ニ出
 給フ故ニ三世諸佛トハイフ也。十方薩埵トハ
 東南西北ノ四方ト。四角ト。天上ト地下ト
 合テ十方ト云ナリ。薩埵トハ菩薩ト云ト
 同シ心也。多衆生ヲ救ヒタスケテ念慈悲
 心アル大道心ノ人ヲ菩薩トモ薩埵共云
 也。

神分ニ般若心經 惣神分ト云ハ天神地
 祇十方守護ノ神徳ヲ通惣メアケタル
 言也別而勸請スルトキ。梵天帝釋三光
 四天王等讀アケタテマツルコト。於諸經佛
 神守護ノ説相アリ。故ニ此諸天等ヲ勸請

自然居士

スル也次ニ般若心經ト云ハ般若部ノ經ト
部小部多其中二簡要ヲツクメテ心玉ト
スル心ヲモツテ般若心經ト題セリ

敬白受諷誦之事ニ寶衆僧 諷誦之事ト

讀誦ノ義ナリニ寶衆僧トハ三世ノ佛

體十方ノ薩埵佛法修行ノ僧寶也又ハ

諸善神ニ令表白佛前三テ讀上義也此

諷誦ノ一通ノ功德ヲ佛ハ五種ニ示メタマフ

讀誦トハ千部万部ノ經ヲヨム功德也書寫ト

ハ願寫漸寫ヲ書功德也憶持トハ坐禪修

行ノ功德也演說トハ說法談義ノ功德也

供養トハ佛神三寶ヲ供養スル功德也此五

種ノ功德諷誦一通ニヨメルカ故ニヨミ上ル時三

寶ハ納受シ施主ハ願成就シ聖靈ハ佛道ニ

イタリ聽聞ノ人々ハ殊勝歡喜ノ涙ヲナガシ

コト功徳ニ依テ尊靈妄念ノ雲晴ノホシ

眞如ノ月周遍法界スト云云 伽陀經ノ説也

自然居士

三寶衆僧御布施一裹

三寶衆佛寶

寶僧寶人ニシテ云ナリ。此佛法僧ノ三寶

字ヲ付タルコト。世間ノ貧者。貧者ヲ與ル時。

忽ニ長者トナル如也。然ルニ出離生死ノ道

ヲシラザル者。如貧者。此人ニ佛ト云事。法

ト云事ヲ僧コレヲ示セハ悟シ得カ故ニ三ト

モニ寶ノ字ヲ付トミエタリ。此旨。寶性論等

ニ委明セリ。此中ニ別而衆僧ト上ル事。佛

得コトナレ。是ヲ宣教ル事ハ僧ノ上ニアル故ニ別

ノ衆僧ト稱歎スルヘシ。次ニ御布施ト云ハ

惣ジテ入ニ物ヲホトコスニ付テ。財施法施ト云

事アリ。法施ハ佛法ヲ説テ衆生ニ知スル

ト也。財施トハ力及ホトニ隨テ。財寶ヲ施

スコト也。是則供養尊重ノ見也。一裹

トハ一ツハミト讀也

二親聖靈頓證菩提ノタメ一切恩徳ノ中ニ

二親ノ恩ニシクモノハナシ。此故ニ難報經云

自然居士

左肩持父右肩持母經歷千年便利昔
猶不能報父母之恩トイハ便利トハ大
便ノコト也恩ノ深コト如此ナハ今モ先ニ
親ヲ弔コトヲ舉ト見エタリ。聖靈トハ死セ
ル人ノタニシヒテ敬テ云トキ。聖ノ字ノシ
付テ云也靈ハタニシヒト讀也頓證菩提
トハハヤク。佛ノサトリヲ得シメ給ヘト云
事也

身ノ下ハ。身ニカハタル衣裳ト云コト也。三寶

六佛寶法寶僧寶ノ三ツ事也。右ノ三
寶衆僧ノ所ニ記スルガ如シ。供養ト云ハソ
クヤレシヲト讀也。三寶ヘ物ヲソクヘ奉

敬ヲコトヲ云也

ミノ口衣。蓑代ヨロモ。又身ノ代トモ用

西天ノ貧女カニ衣ヲ僧ニ供養セシモ身ノ後

ノ世ノ逆善。此因縁ハ昔於天竺國。極

貧キ夫婦二人アリ。夫婦シテ。タニ一

自然居士

裳ヲモテリ。夫他所ニ行トキ公其妻。家ノ中ニアリ。若妻所用アリテ。時公夫裸ニシテ内ニテリ。其家正體モナク。荒テソトヨリモミエトオレ程也。然レ折節。佛法修行ノ僧アリテ。諸人ニ勸メ。彼貧女ノ家ニ到レリ。夫ソトへ行又シ公妻裸ニシテ留レリ。下人ノ僧此形ヲ見テ。涙ヲ流レ云ケル。佛法ニ値事難シ。汝前生ニテ慳貪ニシテ。物ヲ施サバリレカ故ニ。今貧道極ル身ヲウケ入リト云捨テ。家ヲ出ントス。此時貧女僧ニ語テ。ウラウラク。暫待タメ。吾夫外ヨリ歸ル。此事語レト云キ。時ニヤカテ夫還ス。貧女夫ニ向テ。施度事ヲ云。時ニ夫云。施ハキ物ナシ。如何スベキト云。時ニ貧女此一枚ノ衣裳ヲ以テ施サト云。夫人云。唯一著物ナリ。若コレヲ施サ。我婦内ニノニ有テ。餓死ナシカト云。コノトキ貧女ノ云。施テ死テラハ。後世ノ望アリ。施サスレテ死共。來世

依ヨク 若シムヘントイハ。此時夫同心ニ喜ロテ
 僧ニ施セリ。コノ功德ニヨリテ。釋尊世ニシ
 ニストキ。舍衛國ノ大長者ト生ジ。彼貧女ハ。
 長者ノ女ト成テ。誕生スル時白花ノ如クナル
 天ノ衣ヲ身ニトヒ然モ成人スルニ隨。其衣裳
 身ニ應ズ。コノ事賢愚經第四卷ニ出タリ
 此等ノ因縁ヲ今謠ニ引出セル乎
 今作善爲親 此意ハ父母ノ恩徳ヲ報セト
 先カク先セ 考ト云ハ。父ヲ云。妣ト云ハ。母ノ事
 ゾ。死シタル父母ヲ考妣ト云フ。昔ハ生タ
 父母ヲ云。タレドモ。後ニイヒカヘテ。生タルヲ
 父母ト云。死タルヲ考妣ト云ゾ。先ノ字ヲ
 以ニテキテ。先考先妣ト云ハ。過去タル人
 ナルホトニ先ト云。字ヲ添タリ

教ノ聽衆モイロク 説法ヲキク者ヲ聽
 衆ト云ナリ。數トハ。アマタ多キ聽衆ト
 云心ゾ

大津松本

河州ノ大津也。松本同所。

説法善悪ヲ知レメン為也

惣シテ。善ト悪トヲワクルニ付テソレクノ

相對アリ。所詮ハ悪ヲバ教ヘテ造ラサルヤ

ウニ示シ。善ヲハ教ヘテ。作シムルヲ説法ノ詮

トハスル也

善悪ノ二道

今ノ諺ノ語。打ニエタル如ク。善悪ノ二道明

也。殊彼身ヲウリタル女ヲ。急キツレテ

行ニス。作善ノ障ト成事。是極惡ノ大カ

願イレクドクフギフキ下切カトウヨ衆生カイク

成佛道。願以此功德普及於一切我等

與衆生皆共成佛道上。尸棄木梵天王

延向ノ文也。訓云子ガハクハ此功德ヲ以テ下

ニ子ク一切ニ及シ我ラト衆生ト皆トモニ佛

道ヲシヤウゼントヨム意ハ。会ナス所ノ功德

ヲワレト。タ諸人イケルモノトニメクリムカ

ツテミナ共ニ佛ニテラント子ガノ事也
佛道修行 佛道修行ハ佛ノ道ヲ修行

ニ付テ當時八宗九宗ノ道カハレドモ佛ノ
道ヲナイシシ經ニトキタルハ譬ハ都へ上ル

道ヲ始テ作ラ又如クアル道ヲ有ヤウニ教
元故ニ釋迦ノ始テ佛ノ道ヲ作ルハ非ス

是ヲ本住法ト云也如此ノハ遠シク知難
唯今目前ノ柳櫻ノ春ヲシリ人ノ自ニテ

佛道修行ト云也 能覺見明テムルヲ

イカヤシテ 不知レラストツクル重詞也
山田ヤハセノワタシ舟 江州名所

歌 武士ノヤハセノワタリスル舟ヲイクツタヒ
瀨多ノ人レモリ

水ノ矢スリケ霞ヲハカスニ霞一レホニシホ
ナト申 水ノ煙水ノ氣ニ煙ノヤウニシユル

也ソノ煙ノカスミタル體乎一カスニカスハ
ハルクトミタル事アルベシト入ニホトハ霞ノ

一重二重夕ノ軒乎

僻事ヒカコト心ココロ偽イツヅクトノ類トノナルベシノノ事

ニモナキ詞也コトバ俗言ソコトバニ云イハレニ云イハレトヨク聞キコエタリ

セツキヤウシヤセツキヤウシヤ説經者セツキヤウシヤトハニツハ何經ナニノキヤウシヤナリトモ

ト草クサ木キニモアリキ。春ハルフシラセキハ花ハナサキキ秋

トフフ。ラシシヘヘ下ゲ紅葉コノハスル。是コトニヨリリテ人ヒト々々ノ根ネニ

トシタカヒシ備ビノ道ミチヲ悟サトフル。草木クサキ經キヤウシヤヲトククト云イハレ

ト場バヤノ字ジヲ置オキコトハ摠トクノ場バヤノ字ジハ米コメノ棟ムネヲ

トリスツル所トカ場バヤト定サダムルニ依ヨリテ。ヤカテ是コトヲ

佛法ブツポフニ合アセテ云イハレ時トキ人ヒト々々ノ煩惱ボンノウ惡業アクガフヲ棟ムネ

ニ譬タトヘフ。此コト煩惱ボンノウノ棟ムネニ佛ブツ法ポフヲ以モテ打ウチハラヒ

ト眞マコト實シツノ覺カク見ミ人ヒト正マコト體タマシノ米コメヲアラハス故ユヘニ説セツ法ポフノ

所トコロ乃至タラシ佛ブツ法ポフノ所トコロカ道ミチ場バヤト云イハレナリ。此コト

事コト天台テウタイ止トメ觀カン卷クワンニ注チウセリ

トナシクナルトナシクナル空カラ成ナリナク成ナリタル心ココロ也ナリ。人ヒトノ死シタル

ヲモ云イハレ也ナリ

トナシクナルトナシクナル空カラ成ナリナク成ナリタル心ココロ也ナリ。人ヒトノ死シタル

ヲモ云イハレ也ナリ

身ヲ捨人 是ハ親ノタメニ身ヲ賣ヲサレテ

身ヲ捨人トイヘルナルベシ。捨身ノ行ト云コト。

此謠ノ末ニアルハ是也

大衣ヲカケテ身ニ 大衣トハ袈裟衣ノ内ニ大ト

中ト小トノ三ノ不同アリ 其中ニ二十一條

二十三條二十五條ノ上品ノ大衣ト云云云

ニテハ僧伽梨衣ト云也

不祥ハ 一ハイナラヌノ心也

本寺ハ根本ノ寺ノ末寺ハ根本ノ寺ヨリ

出タル末ノ流ハ寺也

ムツノ國ハ陸奥ノ國也

拷訴ヲイタサフ 是ハトガ人シテ荒クサイナム

事也 天平御覽ニ 拷掠ト云コトアリ 是モ

同ク心ナリ 其注ニ 鄭安乃覆就於船下

而燒馬糞於船兩頭薰之トアリ コノ意

ハ戴就ト云者アリ 辟安ト云者ガ揚州ノ

從事タリシ時戴就ヲツニスルコト有テ船

方ウツフケテ。戴就^{タイキウ}ヲ中^{ナカ}ニシキ。船^{フネ}ノへサキ
 ト。艦^{セナ}ノ方^{カタ}トニ。馬^{ウマ}ノ糞^{フン}ヲツミ。ソレニ火^ヒヲ付^{ツケ}
 テ。ムレタテ。サイナミタル事^{コト}アリ。爰^{ココ}ニ自^ミ
 然^シ居士^シヲ。拷^{ガウ}訴^ソセウト云^{イハ}タルハ。船^{フネ}中^{ナカ}ニテ
 ノ事^{コト}大^{オホ}六^{ロク}。似^ニ合^{アヒ}タル事^{コト}也^{ナリ}。又^{マタ}拷^{ガウ}訴^ソニテ責^セ
 殺^{コロ}レタル故^{コト}事^{コト}モアリ。是^レハ魏^{ヱイ}書^{シヨ}ニ。盧^ロ度^ト世^セ
 逃^ニ於^ニ鄭^{テイ}。鄭^{テイ}家^カ崔^{サイ}浩^{カウ}使^シ者^{シヤ}。囚^ヒ羅^ロ長^{チヤウ}子^シ。將^{カク}
 莖^{スエ}楚^ソ。アリ。是^レハ。度^ト世^セト云^{イハ}者^{シヤ}。外^ガヲ。鄭^{テイ}
 惣^{ソウ}領^{リヤウ}ムスコヲ囚^ヒニナイテ。拷^{ガウ}問^{モン}シタツ。其^ノ時^ニ
 羅^ロ戒^{ケイ}之^ヲ曰^ク汝^ニ雖^モ死^ス勿^レ言^ハトアリ。是^レハ。せヌコ
 ロサルトモ。白^{ハク}狀^{シヤウ}スナト拷^{ガウ}問^{モン}ニアフ子^コライサヌ
 タレ。子^コ遂^ニ被^レ拷^{ガウ}掠^{ラク}至^リ于^テ火^ノ熱^ニ其^ノ體^ヲ囚^ヒ以^テ物^ヲ
 故^{コト}ストアリ。是^レハ。其^ノ子^コ親^ニノ命^ヲヲウケテ。ウ井^ニ
 ニ白^{ハク}狀^{シヤウ}セス。ヤキ殺^{コロ}サレタト也^{ナリ}。物^ヲ故^{コト}常^ニ示^ス
 モツコト云^{イハ}書^{シヨ}ニテハ。フツコト讀^{ヨム}ヘシ。

ツレナフ 難^ツ面^シト書^{カク} 俗^{ソク}ニイフカコトレ
 レガ、ラサキノ一^ツ松^{ソウ} 卒^{ソツ}崎^{サキ}ノ松^{ソウ}昔^{カキ}ヨリ一本^{ヒト}ア
 出^デモツコト云^{イハ}書^{シヨ}ニテハ。フツコト讀^{ヨム}ヘシ。

自然卷三

也。不ツレモ。江州名所。

黃帝ノ御宇ヨリ事起テ流貨狄カ謀ヨリ

出タリ。黃帝ト云ハ三皇ノ内ノ一人ゾ伏犧

神農黃帝ト云。メテタキ御代也黃帝名ハ

軒轅ト云氏ハ有熊也舟ヲハ黃帝ノ作始

テアリ貨狄カ共ニ思案ヲシテ。揖以下

ヲ作タリ

御宇御代也

鳥江トイフ海ヲ隔テ責ヘキ様モナカリシニ

應邵ト云者カ注ニ出カ。古ノ天子トシタソ

昔ノ天子ノナカレノ銅頭鐵額嗽沙吞石是

ニ山海之精也ト云テ頭ハアカ子額ハクロカ子

沙ヲクテ石ヲ吞テ海山ノ精カ生テタ

ル人ト也此蚩尤カ天下ヲ亂ホトニカレヲ亡

ホサントレ給テ涿鹿野ト云所ニテ五十二度

ニテ戰テ遂ニ蚩尤ヲ禽殺シタソ。鳥江ヲ

隔タルト本傳ニ不見涿鹿在上谷ト張

自然見コ

十七

晏カ注シタルガ。此上谷カ深谷ナル故ニセムベキ

ヤウチレト云々乎。逆臣ハ朝敵也

黄帝ノ臣下ニ貨狄トイヘル士卒アリ。士卒モ

吾内ノツカヒ者ト云心ゾ

散柳ノ下葉水ニ浮レニ又蛛ト云蟲是モ虚空

ニ落ケルガ。雲笈カ云ク。黄帝見浮葉方爲

舟ニ臣助爲舟楫トアリ。黄帝ノ葉ノ

海上ニ浮タルヲ見テ。舟ヲツクリ夕時ニ化

飲ニ云付テ。作ラセラレタリ。工出スコトハ。

黄帝ノ工夫ヲ。浮ヘル葉ヲミテ作ルハ本説也

柳ノ葉ヲ注シ。謡ニ作タルノヘシ物テアランノ

蛛ノ柳ノ葉ニカカリタル詩アリ。東坡カ句

。落月出柳看垂蛛ト云。八月ノ景カ柳ニウ

リタル其影ノ内ニ蛛カカリタルヲ見テ作タ

リ。是モ柳ノ葉ニ蛛ノカカリタルハ似タコトゾ

サ、ガニソクモノフルニヒ。吉事アラントテ蛛ノ

サカルヲ云。歌ワカセユカクベキヨヒナリサ、

道カニ。蜘蛛ノフルニヒカ子テシルシモ

自然見コ

十七

蚩尤ヲ安クシテ御代ヲ治タマフコト一カ八千
歳トカヤシク一カ八千歳トハ三皇ヲ合テ云
フ間エタゾ。黄ノ百十年人間也。伏犧カ
百十年也。伏犧ト神農トノ間ニ十五代アリ
此間カ一カ七千七百八十七年。神農カ百四
十年合セテ一カ八千三百三十七年也。太敷シ
トリテ一カ八千歳ト云フ。伏犧神農黄
帝ヲ三皇ト云テ其間ノ十五代ヲ入スル
數ニ入テ高都合シ云フ

然レフ所ノ船ノ字ヲ公ニスムト書タリ
船ノ字ヲ分ク。舟ノ字ヲスムト讀タル字
ノ字ヲ公ニスムト云字訓不見然
今韻會先仙勻ニスムト云前ノ字注
前本作舟又或作制之疑作謡
者以此字訓作之欵既舟之整觴
如謡之本文

舸大舟也。前蜀王才。江而上龍舟畫
舸ト云事アリ。前蜀ノ王ノ北方ヘ國メクリ
ト時ニ龍畫キタル舸ノ舟ニラレタゾ大キヒ

日本書紀

蚩尤チウヲ安ヤスクシホロホテ御代ミヨヲ治ツクタニラフコト一ヒト方八千
歳サイトカヤヤ一ヒト方八千歳トハ三皇ミタラヲ合アテ云
フ間マエタツ。黄ワウ帝テイノ百年人間也。伏犧フツキカ
百十年也。伏犧ト神農トノ間ニ十五代アリ。
此間カ一ヒト万七千七百八十七年。神農カ百四
十年合セテ一ヒト万八千百三十七年也。太タイ數スヲ
上ウリテ。一ヒト方八千歳ト云フ。伏犧神農黃
帝テイヲ三皇ト云テ其間ノ十五代ヲ入スメ
數カズニ入ステ高都カウツ合アフ云フ。

然シカレフテノ船ノ字ヲ公ニス、ムト書タリ
船ノ字ヲ分ワケ。舟ノ字ヲス、ムト讀ヨミタル字
訓ツニス。近チカク建仁寺ノ月舟ツキフネヘ相國寺サウコクジ
惟高ツカウトハレタレドモツ井ツヅニミヌトアツタツ。
昔ムカシヨリ出デ處トコロ不知也。
天子ノ御舸ミカネヲ龍舸リウカト名ツケ奉タテマツ。韻府インブノ注ツニ
舸カネ大舟也。前蜀王ゼンシヨク北狩キョウ浮江而上龍舟リウフネ畫
舸カネト云事アリ。前蜀ノ王ノ北方キョウヘ國クニメグリ
人時ヒトトキニ龍畫リウガキタル。舸カネノ舟フネニラレタツ。大キヒ

目次

舸ノ字ノ考
舸ノ字ノ考
舸ノ字ノ考

自來天

舟ヲ移レキタル舟

船ヲ一葉ト云コト此御宇ヨリ始リ

右ニ申タル事ゾ。黃帝ノ浮葉ヲニテ。船ヲ

又君ノ御座舟ヲ龍頭鷁舟ト云スモ此御代

ヨリオコリ淮南子ト云本ニ云龍舟鷁有注

鷁ハ水鳥也畫其象著船首以禦水患

言ハ鷁ト云鳥カ水ノ上ノ難ヲ避故ニ天子

トモ云ゾ龍モ舟ニ造ルゾ龍ハ水ヲ得タルモノナ

ルホドニ龍ヲ造ル也

佛ノ難行若行ヲ給ヒモ是モ悉達太子御

出家以後佛ニ成給ハサル先ニ種種ノ難行

若行トテ餘ノ者ノ作カタキ事トモヲ能成

給ヘ。或ハ極寒ニモ衣ヲ重子ズ極熱ニモ薄衣

ヲキス。或ハ一人食。或ハ無食。或ハ樹下石上ヲ

座トシテ惡獸風雨等ノ難艱ノ堪忍シタ

ノ事也。此義釋迦譜并釋迦方誌經律異

自來天

相諸經要集等三委載タリ

一切衆生ヲタスルカ為 右佛ノ難行苦行ハ

自身ノ為ニアラス 偏ニ衆生利益ノ慈悲

ヨリ起ルト云意ナルベシ

身ヲ捨骨ヲ碎ハク意ハ 佛モ身ヲ捨骨ヲ

碎キ給ケルハ 今又自然居士モ彼貧女ノ為

ニ我身ヲ捨テモ 人ヲ救ヒトイヘル意也

然ハ佛ノ身ヲ捨骨ヲ碎キ給ル事ヲ法

華云頭目髓腦身肉手足不惜軀命

矣。是ヲノ意ナルベシ 數珠事 是ヲ天竺ニハ 鉢塞莫ト云也。唐三

コレヲ數珠ト云。數珠トハカスル夕ト讀也。先

珠ト云ニ付テ。種種ノ珠アリ。數珠經ノ意

金銀赤銅水精瑠璃沉水香貝又青蓮子等

珠不同アリ。次ニ數ヲイハハ。百ハアルヲ以テ

正トスル也。或ハ珠ノ數五十四。或ハ四十二。或ハ

二十七。或ハ二十一。或ハ十四ナト擧タル經ア

リ。按量數珠功德經又八曼珠室利况

藏中。按量數珠功德經陀羅尼集經等

二宣ヲレタリ

志賀ノ浦十六サ浪ヤレガ辛崎ノ松ノ裏葉

小浪サレ波。志賀ノ枕詞ニヨミナラハセリ

モトヨリツミハ波ノ音 唐古事不知攝州

湯山ノ名所 音ニキク鼓ノ瀧ヲウキミ

シバタ山ノ川ノ上ニツ有ケル

トウトウチ トウノ字ハ。藪ノ字乎。鼓ノ聲也

ヲ篠ノ竹ノ。小篠 篠モ竹ノ類乎。チイサ

キ竹ヲ云乎

菩提ノ岸ニヨセクル舟 此岸ト云ハ水邊ニ付

ケル詞也。此意ハ。或ハ生死ノ大海。或ハ三途

川ト云テ。若シ海河ニタトハタリ。此苦

海河イカナル重身ナレドモ。法ノ舟ニニ。向ノ

岸ニ到又ハ出離生死トテ。悟ニ到所ヲ善

提ノ岸ト譬ヘイヘルナリ 菩提ハ悟ノ智ノ

體也。常ニ彼岸トイヘルモ此心也

自然居士

了東 風鈴十下ノナル聲ソコハ鼓ノ聲ヲ
云ト聞エタリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

殺生石
是ハ玄翁トイヘル道人 玄翁ハ洞下ノ儂

也。道人トハ佛道ヲ心得タル人ヲ云也。
我知識ノ床ヲ立サラス一大事ヲチケキ

知識ト佛法ノ道理ニヨク達シテ一切ニライテ
知恵深ク諸人ヲ佛法ノ中へ引入ルヲ云也。

我トハ玄翁ニ我也。善知識ノ所ヲ又レク立
サラス。佛法ノ一大事ヲ極メ悟リヲ開キ

也。知識ノ釋ニ云。聞名為知見形為識ト

没生石

アリ佛ノ三名ヲ闡ヲ知ト云佛ノ形ヲ見ル
ヲ識ト云也

ホツスヲ打フツテ世上ニ眼ヲサラス

拂子トハ佛在世ニ出家ノ修行スル時ニ

小蟲ドモノ人ノ肌ヲウツフ事ヲ愁ルヲ佛

ノ哀ニテ拂子ヲ作りハラハスル也拂トハ

ハラフトヨム也サテ此拂子ニ羊毛ノ毛アサ

ノ糸切サキタル縮木ノ皮草ノ枝ナド

テ作ル也拂子ハ底心ハ一切ノ塵勞妄

想ヲ拂ヒキラン為也一大事ノ悟リヲ開

キレヨリ拂子ヲフツテ説法スル也世上ニ

眼ヲサラストハ世間ノ者ヲ公眼界ニミコチ

イテ眼ヲ四海ニサラス也

此夕ヒハ都ニホリ當夏ヲ結ハヤト思ヒ候

結夏トハ四月十五日ヲ云ノ四月十五日

ヨリ七月十五日一テ夏九十日禁足ノ

生ル蟲ヲモフス佛法修行スル也玄翁モ

都へ上テ夏ヲムスバント云也

夏

二

卷之三

雲水ノ身ハイツクトモ定メナキ 雲水ノ身トハ

遍參ノ諸國ヲ廻ル雲ノ變化ノ定メラズ

水ノ流テトニマラスヤウ也

ウキ世ノ旅ニ迷ヒ行心ノ奥ヲ白川ノ結ビ

ヌメタル下野ヤ那須野ノ原ニ村ニケリ

ウキ世ノ旅トハ人生如逆旅トテ此世界ニ

居ル間ハ誠ニ旅屋ノ如キ也逆旅トハ

旅屋ノ事ノ

下野 奈須野 下野國名所也

鳥類 畜類 トフ鳥ノ類ト畜生ノ類ト也

鳥羽院 又ハ近衛院時代詳テラガル也

殿上 ダイリノ事也

風情 人ノフウテイノ心ト申ス事也

アマガルヒナ 神詠ニアマガルトアリ天

ニトヲサカルヲ云又天ヨリクダララ云天

ノ君マシマス所ハ天也マシマサ又所ハヒ

ナ也ヒナトハ井ナカノ事也

アマガルヒナ カキリモナク遠ニ田舎ト

受生巨

三

糸

云心ナルベシ万葉二天離トカケリ

悪念 悪心ノ念

梟松桂ノ枝ニ啼ツシ狐蘭菊ノ花ニカクス

此原ノ時モ物スゴキ秋ノ夕哉 白樂天ガ

凶宅ノ詩ニ云梟鳴松桂枝狐藏蘭菊叢

トアリ梟ハ不吉ノ鳥也狐ハ妖怪ノ獸也

クロウ松ヤ桂ノ枝ニナキ狐ハ蘭ヤ菊ノ叢

ニカクシ栖ト公所カラ物スサマニキ體ナリ

夕ハ九程ニ物スゴキ有様思ヒヤラシタル也

此玉藻ノ前ト申スハ出生出世定マラス

出生出世トハユノ心ハ玉藻ノ前ハタシガ

ウミタル子トモ無イツクヨリ生シタルト云

出世モ定マラス何ノ世ニ出タルト云事モ

定マラス

然ルニ紅色ヲコトシテ容顏美麗タリレカハ

紅色トハ不断身ヲタシニ紅妝ト云

モ紅ニウツクレクヨソホヒヲナス也容顏ハ

貞カホバセ美麗ハウツクニ名ウルニキ也

三

科生石

御慮 テイワウノ御心也

一事トゴホル事ナレ。經論聖教和漢ノ才

詩歌管絃ニ至ル。テ問ニコタヘノラカラス

玉藻ノ前ガ智惠ヲカレバ。ノ事トシテ

トゴホラズ。經論聖教トハ佛ノ説タル

經也。聖ハ聖者トテ。佛ノ弟子タチノ論

ノ記タルヲ論トイヒ。教ト云ゾ。和漢ノ才

トハ和ハ歌道ノ事。漢ハ唐ノ故事。詩

歌トハ詩ハ唐詩トテ。唐ノ世ニ盛ナル

律ノ詩ノ事。管絃ハ竹ニテシタル吹物ヲ

管トイヒ。糸ニテシタル道具ヲ絃ト云也

心底曇リナケレバ。心中ニクラキ事ナキ

ヲ。曇リナキト云ゾ

清涼殿 タイリノ御殿ノ名也

月卿 大臣ヨリ。三位ノ人ニテヲ云也

雲客 四位五位六位ノ人ヲ申ス也

堪能 能藝ノスグレタル心也

御遊 樂トサイハラトアヒツガイ申ス也

雲上人 公家ヲ申ス也

セウナイ 松明トカクゾタイマツノ事ノ

大内 たいりのこと也

畫圖ノ屏風 せいりやうてんのうちニアリ

菘ノ戸 昔ノ清涼殿ノ東西ニアリ

甲三ノ夜ノ錦ナリシカ共光ニ耀キ石ヒトヘニ

月ノ如ク也 ヤ三ノ夜ノ錦ト公項羽曰富

貴不歸故郷如衣錦夜行此心ハ富貴ニ

成テモブル里へ歸テ故人知音ニモミセ

バ錦ホド結構ナハ衣服ハナケレ共ヤ三ノ

夜ニキレハ其曲モナキト云心也此心ハ

清涼殿ノ内畫圖ノ屏風ナドノ花麗ナル

毛燈燭カ消タレバマツクロニナリテ何ノ

ワケモ見エヌホトニヤ三ノ夜ノ錦ナリト

詞ノアヤニカク也

御惱 テイワツノ御ワツラヒ也

安倍泰成 大藏少輔從四位上仲丸十

五世ノ孫也

卷之三

勘狀ニ申ヤワ

玉藻前ガ身ヨリ光ヲ放

チテヨリ天子御惱ナラセタマフニヨリ

スナリ吉凶ヲ占ヒ。勘狀トハ勘ハカンガフ也

カンガヘシルシテ狀ヲタテマツル也

所為 所為ト云義也

手法 テイワワノマツリ事也

化生 今マテナキ物ガフツトテクル事也

テウフク 調伏トハ真言ノ行ヒニアリ大

威徳ハ人ノ魔トナルヲ調伏ス不勤ハ

天魔ヲ調伏シ給フナリ。此外ニ道心アル人

ハ心ノニシレンヲヤルヲ調伏ト云也

奏 テイワウヘ披露申事也

石魂 殺生石ノ魂ト云心ツ

悪念ハ歸テ善心ト成 悪心ガヒツカテ

ヨキ心ト成ツ

本體 根本ヲウシツキタル體也

浅間ノ夕煙 信濃國浅間嵩也イツモ山

カラ煙ノ立ト歌ニモヨメリ

段三

和生石

懺悔ノ姿アラハサシ 懺悔トハ懺ハ修來悔

夫ハ改往々日所作不善法而惡之故名

本為悔云心ハ是ヨリ已前ノ惡事ヲ今ヨ

悉ク懺悔ノコノ後ハラリト打ス下善法

ヲ修スルヲ云也悔ハ後悔ノ心テ前ノ惡

ヲハクイテ懺トハ已後ノ善ヲナス也姿ト

ハ前ノ惡ヲクイテ真實ノ姿ヲアササント也

ホクセキ心ナレ 木石無心トハ妙樂大師

ハ木石無心之語生乎小宗隨緣不礙之

説出自大教トイヘリ。小宗ハ木石ニモ心

アルヲ心セバク無心ト云也。大教トハ有ニ

摧大乘ハ不變真如ヲアカレテ隨緣真如

ヲ不明實大乘ハ法華經ニ知法常無性

佛種從縁起トイヘリ。故木石モ縁ニシカ

ヒテ心アル也。仍釋迦ノ時御入滅ヲカテシ

三テ。雙林ノ十力ニ。四本ノ木ハ栴。四本ノ

木ハ知常住佛性榮ル也。是ヲ四栴四榮

ト云也。唐ニハ靈巖寺ノ松ハ玄奘三藏

新出石

ノ渡天ニシタカツテ松ノ枝西ニカクムクナリ。

日本ニハ管丞相左遷ノ時老松飛梅有

心ト云。此等ノ例アリマタアリ

草木國土悉皆成佛トキク時ハ本ヨリ佛體

具足セリ 木石ハ無心ノ者ナレドモ法華開

會ノ説法ノ時ハ草木モ國土モ悉成佛也

無心即佛心ノ道理也佛體具足ト公草

木國土共ニ佛性ノ本體ヲ具足セテ云事ナレ

況衣鉢ヲカツクルナラバ成佛疑ヒ有ヘカズ

衣鉢トハ衣ハ加衣鉢ノ事也悲華經云袈

裟有功德一犯重罪見敬心尊重必於三

乘授記ニ天龍人鬼若能敬此袈裟五分

即得三乘不退云ヶサノ功德邪見重罪

十ノ人天龍鬼畜ナリトモ袈裟ヲ少シモウヤ

下ハ成佛ノ縁トナル也鉢トハ出家者ノ

食ヲ受ル器物也草木國土共ニ成佛ナ

レバ况ヤ衣鉢ヲ授タラハ其功德ニ依テ

成佛ウタガヒナレトノ義也

段注石

九

物生

石三向ヒテ佛事ヲナス波元來殺生石

玄翁石ニ向テ説法ト波ハ元來殺生石

ト云ツ殺生トハ一切生アル程ノ物ヲ口

スト云心ツ元來トハモトヨリノ心也

トフレイセキ何レノ所ヨリ來リ今生如此十

元キウツニサレク今春トフ石レイハ

觀世友問トハ玄翁石ニトフ也生アル

程ノ物ヲ殺ス靈アル石ハ何レノ所ヨリ

來ツテ今生カクノ如ク人ヲナヤマスツ

サレクトレメス也

自今以後イニヨリノチトヨム也

汝ヲ成佛せシメ本覺真如ノ全身トナサンセツ

レニセヨ今春汝ハイレヲサレテ云也殺生

石ヲ此女ヒ成佛せシメ本覺ノ悟リヲ開

カシメ真如ノ佛身トナサン也全身トイハ

トテ色相ニアラハル身ニテハ非ス法身

無形ノ全身トナスベキ也攝取セヨト此

道理ヲヨク得心シ會取セヨト示ス也

殺生石

石ニセイアリ水ニ音アリ風ハ大キヨニワル

石ニ精アルハ殺生石ナル程ニ精魂アリ下

云也其オリカラ水ニ毛音有風毛聲有也

大虚ハ大ツク也空ヲ風ノ吹マテ也

鬼ツ今ツ顯ハス石ノニツニ破レハ石魂忽顯

出タリオソレヤ玄翁ニレサレハ鬼シカ

クスコトモナラス石カニツニ破タレバ石ノ精

魂即顯テオソレキ姿ヲ現ズルツ

聖干ヤカントハグツ子ノ事也

人體入タイトハ紙カバケテ人人鬼トナル也

天竺月氏國ノ事也

ハンク太子ノ塚ノカニ班足太子ノ塚ノ神

トハ仁王經ノ説也班足太子千ノ王ヲ殺

レ塚神ニニツラントス並昔明王最後ニトラ

ハル仁王經ヲ讀ニ班足王罪非常ノ偈ヲ

聞テ空平等地ノ悟ヲ開時千ノ王ノ命ヲ

扶ク則千ノ王ノ髮ノ毛ヲサケテ塚神ヲ祭云

大唐ニテハ幽王ノホウジ后トケンジ

史記周本紀曰幽王得褒姒愛之云龍二
 神龍止夏庭而言曰余褒之二君也龍已
 聚在橫而去之殷亡傳此器周至厲王亦
 發而觀之聚流于庭聚化為玄龜入王右
 宮後宮之童妾無夫生子懼而棄之云宜
 王見卿後宮童妾所棄妹子於路哀而收
 是為褒姒云褒姒八周幽王右昔
 夏代二一ノ神龍カ夏ノ禹ノ庭ニト、
 ツテ云事ハ吾ハ褒ト云處ハ二リノ君也

ト云ツ。龍ハ去テ龍ノアハガ残テアルヲヒツ
 へ入テトツテライテ。其ヒツヲ。周ノ十代目
 ノ厲王ノ時ヒツヲ開テミタレハ龍ノアハ
 庭ニ流レテ。黒キカヌトナツテ。王ノ官中ニ
 入也。官中ノ童女久口キカヌニアラタツ。童
 女ヤカテハラミテ。夫モ無ノ子ヲ。ウミタルホ
 ドニソソレテ。其子ヲステタツ。周ノ十一代
 目ノ宣王ノ時ステタル子ノナクヲ聞テア
 ハミテ養フタツ。褒ト云處ノ入。罪ヲ得タ

養生不

十一

時ニ養夕儿妖子美人二十リ夕程ニ是夕衰
似ト云也妖子トハ夫モ無ノ生レ夕儿女上儿
ホドニ妖ハケラズレ不心テ云也觀世方
爰ノ詞ヲ幽王ノ后ホウジト謡フハ今春方
人ホウジ后トツケタルニレ夕儿歟

我朝日本ノ事也

王法王ノ法度ナリ

遊女遊ビ樂シム女也

玉體天子ノ御身ヌ云也

カンタンヲ碎キ祈リレカク肝ノ臟膽

肝ノ臟ニツク也

毛、碎クル程ニ精ヲ入テ祈ルト云ノ心也

五體、四ノ肢トハク口ト也

綸音、テイワラノ仰ノヲモヒキ也

化生ノ物ヲ退治、化生夕儿物ヲ退治

義也

野手ハ犬ニ似夕レ、野手ハ狐ノ事也

犬追物ノハシメ、鳥羽院ノ御時ノ事但矣

三

三

大所以下ハ先代ノ中嘉禎年中ノ比泰時
 經時トド人被相定事ヲ用ヒ來見エ齊
 カリレヤウソク 是ハ何々ト相定ルコトハ
 ニ手ヲサシエヒラヲオヒムカハキトドスキ
 申類タルベタ候
 別條ナシニクルトニ云フ
 詞大追物ノ各自トドニハ不存候
 此謠ニ御座候ハ狐足人跡也
 專大追物ニ用ル詞ニテ候大ハ足下ト申也

矢ノ下ト 定ル各自ハナケレドモ是モ聞
 エタル分タルベシ
 即時 スナハキ其時ト云心ソ
 多年 數年ノ心ソ
 惡事 ワルキ事也
 鬼神 ヲニカニ也

道明寺
善光寺
信濃國ニアリ本田善光如來ヲ
負來テ此寺ニ安置スル故ニ善光ヲ奉
号ニシテ善光寺ト云
タシロノ寺
田代寺ト書也此寺ノ來歴不知之
ソシヤウ
此字具ナラスソシセウトカケル本モアリ
往生極樂 往生トハユキウマールトヨム也

道明寺
善光寺
信濃國ニアリ本田善光如來ヲ
負來テ此寺ニ安置スル故ニ善光ヲ奉
号ニシテ善光寺ト云
タシロノ寺
田代寺ト書也此寺ノ來歴不知之
ソシヤウ
此字具ナラスソシセウトカケル本モアリ
往生極樂 往生トハユキウマールトヨム也

往ト公人ノ夕々シヒガ浄土ヘサリ往生
也。生員ハ今世ノ夕々シヒキエテ。浄土ヘ
生ル義也。觀經云。即得往生七寶池中蓮
華之内。極樂トハ。此世ニ休ケル間
ハ貴人モ賤人モソレクノ苦ヲウクル事。淨
世ノナラヒナリ。浄土ヘ夕々シヒウレユケ
バ。何ノ苦モナク。同心ニ樂ヲ極壽命モ
ツクル事ナキナリ。此ニヨリテ。阿弥陀經
ニハ無有衆苦。但受諸樂。故名極樂トハナリ

ハシノ寺 道明寺ヲ云也

御靈夢 善光寺如來ノ告ニテ。奇特ナル

夢ヲミタルトノ心也

ハシノサト 河内國ノ所ノ名乎

梢ノ秋 スエノ秋。九月ヲ云也

利生 思事ヲ。佛神ニ祈時。信心ノ深大ホ

ト。ハヤク利生ヲカウフル如クイツハラスカ

サラス。一心ニ佛神ヲタノメ。利生感應ア

リ。利生トハ佛ノカタヨリアハレニヲナシ

給テ云也感應トハ願事心人々ニ叶也
 超世人悲願ニ超世トハ諸佛ノ諸願ニ
 行テ濁世末代ノ衆生ニ慈悲ヲタレ易
 行ノ念佛ヲ以テ西方ニ三千七千給テ
 行テテウ世ノヒクワシトハナツク
 アニミツ神 天満天神也
 二世安樂 二世ハ現世後生也安樂ハヤ
 スクタノ公也現世安穩後生善處ノ
 心也

神サフル 神前今ニツカタルサヒニキ體ヲ申
 也又サヒニツクニ侍ヒト歌道ニアリ是ハ
 ホメテ申言葉也トアリ神サフルハ神前
 體ヲ申也
 松ハ長生ノ御神也百年ツクニ花サカレ
 申精エハ世サニハ
 瑞籬ノ神カ也ニツト申モ玉ノ心也
 言ハス佳吉ノ神主ノ尸ヲ造ト申也
 一切衆生現當二世ノタメ一切衆生ハ

平世界一切ノ衆生ナリ。璣當二世ハ璣
在未來ノ二世也

五部ノ大衆經之書供養ニ埋メレタリ

五部トハ一ニ六華嚴經。二ニ八大方等經。

三ニ般若經。四ニ法華經。五ニ涅槃

經也。是ヲ五部ノ大衆經ト云也。大衆ト

オホキナルノリモノトヨム。此意ハ譬ハ海

河ニテハ船ヲ乗ト云。此船ニツイテハ小

船ナリ。大船ナリ。何モ人ヲ乗テ渡レモ

小船ニハ人ヲ多ノセズ。又大海ノ遠處ヲ

モ行カズ。大船ハ人ヲ多ク人セ。然モ大唐

南蠻ニモ渡ル。其如ク如來ノ法ニ小衆

昔大衆ト云。事アル公此ニ譬アリ。譬示

木槌樹ノ道明寺ニアル木也。數珠ニスル

末也。

天神彌陀同意。佛說乎所見ナリ。佛ノ本地

天神ノ御本地クセクワシ。佛ヲ本地

取申事。四大師ノサタ也。根本神道一

用申^{モトメ}別^{ワカ}由^ヨ水^{ミヅ}拍^{ヒキ}八^ヤ三^{サン}本^{ホン}時^{トキ}意^イ
 其^{ソノ}御^ミ本^{ホン}地^チ救^{クウ}世^セ觀^{カン}音^{オン}救^{クウ}世^セト^トハ^ハヨ^ヨス^ス外^{ガイ}天^{テン}
 天^{テン}讀^{ヨク}也^ヤ觀^{カン}音^{オン}ノ^ノ慈^ジ悲^ヒ心^{シン}ヲ^ヲ以^{ヨリ}テ^テ世^セ界^{カイ}ノ^ノ
 衆^{シュウ}生^{セイ}ノ^ノ苦^クヲ^ヲス^スク^クヒ^ヒタ^タス^スケ^ケ給^キフ^フ故^コ救^{クウ}世^セ觀^{カン}
 本^{ホン}音^{オン}ト^ト云^ク也^ヤ即^{ソコ}也^ヤ即^{ソコ}也^ヤ即^{ソコ}也^ヤ即^{ソコ}也^ヤ即^{ソコ}也^ヤ
 昔^{ソノ}在^リ靈^{レイ}山^{サン}名^ナ法^{ホウ}華^カ今^{イマ}在^リ西^{セイ}方^{ホウ}名^ナ彌^ミ陀^タ波^ハ婆^バ示^シ
 現^{ゲン}觀^{カン}世^セ音^{オン}三^{サン}世^セ利^リ益^{イキ}同^{トウ}一^{イツ}體^{タイ}來^{ライ}是^レ八^ヤ人^{ニン}師^シ講^{コウ}
 亦^モ云^ク但^{シカ}此^{コノ}語^ゴ付^{ツキ}有^リ意^イ云^ク昔^{ソノ}公^{コウ}案^{アン}說^{セツ}鳥^{トウ}
 山^{サン}二^ニ於^テ釋^{シヤク}尊^{ソン}法^{ホウ}華^カ經^{キヤウ}ヲ^ヲ說^{セツ}ク^ク今^{イマ}八^ヤ西^{セイ}方^{ホウ}
 二^ニ在^リ阿^ア彌^ミ陀^タ名^ナ奉^{ホウ}觀^{カン}世^セ音^{オン}ハ^ハ此^{コノ}娑^{シャ}
 婆^バ世^セ界^{カイ}ニ^ニ出^デ示^シ衆^{シュウ}生^{セイ}ヲ^ヲ利^リ益^{イキ}之^シ給^キフ^フ事^{コト}同^{トウ}
 一^{イツ}體^{タイ}也^ヤト^ト云^ク心^{シン}也^ヤ
 其^{ソノ}外^{ガイ}神^{シン}佛^{ブツ}ト^トハ^ハ只^シ是^レ水^{スイ}波^ハノ^ノ一^{イツ}也^ヤ水^{スイ}上^{ジョウ}波^ハ
 一^{イツ}本^{ホン}ヨ^ヨリ^リ一^{イツ}體^{タイ}ノ^ノ物^{モノ}也^ヤ唯^{タカ}形^{カキ}討^{チウ}ノ^ノ違^{チガハシ}也^ヤ風^{フウ}
 二^ニ隨^ズ一^{イツ}波^ハト^ト立^{タチ}ヌ^ルト^トモ^モ本^{ホン}體^{タイ}ハ^ハ唯^{タカ}水^{スイ}
 一^{イツ}也^ヤ神^{シン}ト^ト云^クル^ル時^{トキ}公^{コウ}形^{カキ}ヲ^ヲ示^シガ^ガ顯^{ケン}出^デ
 給^キヘ^ヘル^ルモ^モ此^{コノ}意^イ也^ヤ

道明持

注

神佛一如 此コレハ神ト佛ト根本一ナル事

ヲイヘリ 佛ノ出世ニ至ルニ至テハ

ケニ神力モ佛説モ同シ和光ノ影 佛説

ト云ハ佛ノ宣給ハ語也夫々ノ機

之タガヒテ心ヲヤハラテテ説給ヘル故

コレモ和光ノ慈悲ト云心也

夫佛ノ昔神ノ今五々ノ時代ニ至ルニ

佛ノ昔トハ於天竺佛出世ニ給フ時ノ

事也神ノ今トハ我朝神國此コレニ至ルニ

後五々ノ時代トハ佛ノ滅ニ給テヨリ

後五々ノ二十五ノ數ニ二千五百年ノ事

也此事大集日藏經ニ具也然レハ

末ノ代ニ至ルニ神ノ利益ニ和光ノ利益

ニ同シ也此ノ事ヲ申ス

神モ時代ニオフズル

神ノ力ヲ濁世トハ末世ノ事ヲ申ス

濁世ニ應ニタマフニテバラク西都ニウツリ給フ

濁世トハ五濁末世ノコト也天神モニ

...リ...世...影...之...現...スル...ラ...應...ス...云...也...西...
都...筑紫...宰府...云...也...西...
神物...神ホウノ事...乎...神...ダウ...夕種...クアル
未...值遇...天神ノ未...代...テモ...此土師ノ
里...神物...ヲ...人...衆生...值遇...縁...公...ス
也...值遇...事...也...
君...カ...ス...宿...ノ...木...未...ラ...ユ...ク...
カ...ハ...リ...ニ...ハ...ヤ...カ...タル...也...天神...
左遷ノ時...崎...ニ...テ...ノ...歌...也...三...四...日
心ツクシ...筑紫也...
ア...マ...サ...ガ...ル...ヒ...ナ...ニ...ハ...夷...中...也...枕詞也...遠方
空...人...サ...カ...リ...タル...ト...也...
都府樓ノカハラ...観音寺ノ鐘...朗詠...ニ...都府
樓...纒...着...瓦...色...観音寺...只...聽...鐘...聲...ト...天神ノ
御作也...都府樓ハ...宰府...ニ...ル...ゾ...宰府...ニ...昔
皇居...アリ...ト...時...都府樓...ト...云...樓...アリ...天神
ノ...宰府...ヘ...御...ウ...ツリ...ノ...時...都府樓...ガ...ハイ

道明寺
二

工ノ樓モナク。瓦ノ色詭アル也。觀音寺モ
 宰府ノキワニアハ程ニ都府樓ニハ瓦ノ
 色ニテヲ見。觀音寺ニハ鐘ノ聲ヲキク
 十御作アル也。薩夫錫モ天神ノ事ヲ太
 喜ニテ聞及ヒ。觀音寺裏一聲鐘ト作也
 家ヲハナレテ三四月落ル涙ハ百千行万事
 ハ皆夢ノ如シヨリ。彼蒼ヲコス。離家三
 四月落涙百千行。万事皆如夢。時々仰彼
 蒼天神ノ御作也。言ハ京ヲ出テ三四月

二十九日

昨日ハ北關ニ悲ヲカウフツシタリ。今日ハ
 西都ニ耻ヲキヨムル尸タリト御神感アラ
 タニ生テノウラニ死シテノヨロヒアミ子ニ
 下ニミツ陽感ツメテタカリケル
 聖廟記ニ云。正曆五年ニ勅使ヲ筑紫ノ
 安樂寺ハツカハサレ。正一位大政大臣太相
 國ニ贈号アリ。勅使席ノ前ニテ詔書ヲ
 讀ハテラレタレハ石ニ詩ヲ書タルガ顯出テ

延日誌

タル天神ノ太政大臣ノ贈号ヲ謝セラ
レタル詩ゾ其詩ニ曰昨為北闕被悲客今
作西都雪耻尸生恨死歡其奈我今須望
是護皇基昨為北闕被悲客トハ北闕ト
分禁中ライフ也天神御在位ノ時藤原
ノ時平讒言ニ依テ西府ヘ流サレタル程
西ニ昨日ハカナシミラカウフルト云ナリ今
作西都雪耻尸トハ天神御他界ノ後太
政大臣ノヲクリ号ヲナサレタルホトニ耻

ヲクタイフ也生恨死歡トハ時平ノ言
言故ニ遠方ヘナカサルホトニ御在位ノ
時ハウラニフカキ也御他界ノ時ハ贈号
アルホトニ死ニテノヨロコビ也天神ノ御望
タルホトニ今ヨリハ内裏ヲ守護シマウスヘ
キトノ詩也
アミミツ陽感 アミミツハ天満ト云字ノ心ナリ
陽感トハ勅使ヲタテ太政大臣ニヲクリ
号ヲタレハ皇都ヲ守護アラントノ詩

道明詩

御カシシクリアル。御感カシメテタキト云ノ心也。
陽ヤウノ字ニハ。オモテノ心オモテニ顯エステ神カシ感
アル心也。

草木モ皆成佛ノ菓ミニテ 五部ゴブノ木セウ乘

經キョウノ上ヨリ生出タル木キ榎クニ樹ジュナレバ草木

モ成佛ノ菓ミヲ結ムスト云ヘル心ナリ

カトタル木ニタニモ千カレノ花ハサクツカレ

枯木開ク花ノ古語コゴニモトツイテ云タツ
オキキクサオキノ菊キク也也ケサミレハサナカラオキ霜シメ

ヲイタ、キテ。オキナサヒタルニラキクノ花

霜シメクモリ 霜シメフカキ時ハクモル也。花クモリト

云カゴトシ

古鳥蘇コ古ノ樂ガク也

ツ子ノ燈トシ常燈ジョウトウノコト也。明々ハアキラカ也

シラ大夫ノ神 諸神ノケイツノウキ所見ナシ

七社ノ事 八ヤ寺ノウキニ七社シヤノ座ザア

リト也。神カウイマカカンガヘ得ズ
韓神カンシノウキノウタヒ物也

催馬樂ウタヒモノノ也。昔諸國ヨリ。ミツキ

物ヲオサメシ時。民ノクチツサニウタヒケ

ル歌ナレバサイハラト名付也。馬ヲモヨホ

スト云ハ御調物オスル馬カリモヨホス

心也。

笛ホトキ樂器也。

笏拍子。庭上ニテタチカクノ時ウツナリ。或

ハ。三席ノ御遊ノトキ。御舟ノ樂人時。ニ

ヤクヒヤウト申事用候也。舞樂延年ノ

舞ナドニゴノ拍子ヲウチ申ノヨシ承及候

樂人トリ沙汰イタスコト也。

星霜ツモル。年月ヲフルヲ云フ。

辭退スルコト也。

庭火ノ影。庭燎ノ事也。齊ノ桓公ハシメテ。

庭燎ヲスルゾ。礼記ニアリ。庭燎カクラノ時。

庭火ヲタキテウタヒ申也。庭火ノ事。神代

ヨリ始ル也。

アケノ玉ガキ。アカヒ玉ガキトイヒカケテ

申事乎。赤クウツクニキ心也。丹ニテヌリタ

ル也。

ヲ三ノ袖。小忌ノ袖也。

オモシロヤ。面白ノコト也。

七徳サウシヤウ七柏子。七徳トハ七徳ノ舞

ノ事也。七帖アリ。七徳ノ意ヲ擬ス。太食

調ノ秦王破陣樂ノコトナリ。又ハ神功破

陣樂トモ申ス。秦王破陣樂トハ。唐ノ史

記ニ云。太宗イニタ帝位ニホラサリシ時

秦王ニ封セラレ。隋代ノ殘逆ヲ破リテ。天

下ヲ定ム。其功業ヲウタフ故ニ。秦王破陣

樂トイフトイヘリ。舞家ノ紀ニ云。此舞ハ

武ノ舞ニトリテモ。其姿甲冑劔戈ヲ帶セ

ル。然レバ。イカニモアラク。ツヨクト舞ベキ

ナリ。ヨハクナメクトハ舞ベカラズ。名字ニ

ヒタガヒ。景氣ニヨリテ。其振舞ヲ存知ス

ベキコト。此一曲ニカギルベカラザルニヤ。又

云。此習舞ニカギルベカラズ。樂人尚コト

道明寺

ム子ヲヨクく分別メ打物ヲスベキ也樂ハ
舞ノ心也打物ハヤシナリ一同ニ不得
其意ハ難調不相應者佛神ノ感應アル
ベカラス舞ハ又樂ノスカタナリ身口意ノ
三業ヲ以テ讚嘆申習也七拍子ト公京
方ノ伶人申候天王寺ノ伶人ハ兩ノ手
ト申候コレハ舞ノトキ七拍子ト申コト
ツカマツリテ舞ハシメ申候也
ヒザラクツシテ佛ヲウヤマヒテ佛ヲ敬ニハ身ト

口ト意トノ三ニ付テ敬様アリ膝ヲ屈スル
ハ身ノ敬也屈スルトハカヅムル事ナリ或ハ頭
ヲ地ニ着手ヲ合臂ヲ地ニツケタリナド
スルモ皆身ノ礼也兔角ニ佛ヲ敬事也諸
經ニ多ク見タリ
エニシハラヒ 魔縁ヲ被トハ日本ハ神代ノ
時ヨリハラヒヲ以テ魔縁惡鬼ヲハラフ事
一ニ也醫書モ經論モナキ故ナリ佛法
渡シトキ天照太神ワカコトハキタル故ニ

謔宣ヲヤメラルニ依テ今ハ佛法ヲ以テ
 魔縁モ病モ被也ツノ故ニ天照太神ハサ
 キニテ天竺へ出テ佛トナツテ法ヲ説ト
 ノコト也。コノ時ハ神ハ本地佛ハ垂跡ト也
 壽福ヲマ子キ 壽ハイノ千福ハサイハヒ也。マ
 子クトハコヒ子カフ心也
 千秋樂 盤涉調ノ樂也
 萬歳樂 平調ノ樂也
 法ハ進ヲヒキタヘノ 佛法ヲ聞時ノ座敷

ノ體ナリ必ムシロニ限ラ子トモ座席
 云ニツイテ進トイヘルキルベシ
 フルヤ一味ノ雨風ノ法華一如一味雨トイ
 へリ此ヨリノ一味ノ雨ト云語ハ出タリ意
 佛覺ノ内證ハ唯一味ナル處ヲ味ト云
 衆生ヲ草木ニ譬テ雨ニヨリテ枝葉ヲ生
 花菓ヲ結處ヲ衆生ノ迷ヲ離テ覺ニ
 到ニ譬タリ今ノ謠ノ語ノツキハ法ハ
 一味ノ雨風ヲ木樨樹ノ枝ニツキフレテ

莫モヲリフリ落ルノ與ト云事也

百八煩惱 百八ノ數ノ事一經ノ中ニ五平

校ケ計ケ經ト云アリ。迷ニヨセ覺ニヨセ數ヲ

タ、三テ五十箇ノ百八ノ數ヲ出レタリ故

ニ是ヲ五十校計經上名ヅク其中ニ付

テ。即チ天竺下大論ト云論ニ評論ニ大唐

ニテ。天台智者大師此義ヲ理給フ。其一

邊ニ依テ云ハ眼ニ色ヲ見ルニ善色惡色

中分ノ色下リ。此三ニ付テ執着スルト不

着ニアリ。三ノ色ニ二ノ筋アリハ六ト成チリ。

耳ニモ如此六鼻ニモ六。舌ニモ六。身ニモ六ツ

意ニモ六。合テ三十六トキル。此三十六ヲ

過去心ト申レテ。過去ヲモ收現在心ト

申レテ。今思慮ヲ含未來心トテ。後ニアル

ハキ心ヲモ。縮置然ルニ三十六ヲ過去ニ三十

六。現在ニ三十六。未來ニ三十六。成レバ三十

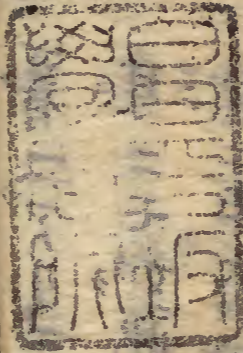
六ツ。三ヲ。百八トツモレリ。此百八ノ煩惱ヲ

佛法ノ一心ニオサメテ。一念ニスリクタ時

變之于覺上成卜云心也俱舍等入說雖
看之今此數易知故二如此記八

六與益三二十六未奉三三二十六
八二十六三二十六二十六二十六二十六
甲五十二今已易知給味味心十二
滋養心十中二十二數去三三

之化已



六與益三二十六未奉三三二十六
八二十六三二十六二十六二十六二十六
甲五十二今已易知給味味心十二
滋養心十中二十二數去三三

